新女界

第二巻　第六號

明治四十三年六月一日發行（毎月一回發行）
明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第貳卷第六號目次

●責任ある言行　安井哲子

△想　苑

●女學界の現狀と女子の覺醒　成女高等女學校長　宮田脩
●慈愛館を訪ふ　一記者
●豐玉姫の獨白　三重縣師範學校教諭　淺山尙
●ユダヤの女　青山學院講師　別所梅之助
●月見草　鈴木重信
●山の色　野口精子

△家　庭

●子女敎育に對する母の務　海老名宮子
●似て而して非なるもの　元良よね子
●應急手當法　醫學士　小山憲佐

△講　壇

●現實生活に於ける信仰　海老名彈正

△雜　錄

●ミス、テップスを訪ふ　共立高等女學校講師　赤星仙太
●摘草集（新聞雜誌瞥見）
●投書籠

△隨　感

●母親の權威　安井哲子
●寸感錄　文學士　相原一郎介

尾島眞治先生著

讃美歌說明

四六半截袖珍形　金十五錢　郵税四錢

讃美歌の敎會に必要なるは申す迄も御座いません殊に御婦人方には最も愛唱されるもので御座いますが仲には讃美歌の由來も御存知なく文句の意味も解らずに御居での方が少く御座いません。本書は讃美歌の作歌者の傳記、作歌の由來を記載し、字解の部に於ては歌中の分り惡い處を註が附けてあり、體裁は小形讃美歌と同形で携帶に便利です。

キング博士著　加藤直士先生譯

イエスの倫理

金五十錢　郵税六錢

イエスの倫理が、他の聖哲や宗敎の說くものより勝れてゐることは御承知の事であります。本書は最新の高等批評の立場より公平な態度を以て、イエスの倫理を根本から研究してあります。是によつて益々イエスの倫理の奥深き所を知り、同時に米國第一流の學者と仰がれ、我邦にも御來遊あつた博士の力を込めた學說を御知りになるならば、非常な御利益です。

英國女流大家エリオツト作　松本雲舟先生譯

小說

アダムビイド

寫眞版九枚入　金五十錢　郵税六錢

婦人の作家は常に婦人の爲になる作をするとは限りませんが、本書の如きは、全く婦人の爲に、良心の尊いこと、正義の必要なることを說かんために、美しい而も心の弱い可憐のヘツチーが墮落する事や、神を敬ふ佳人デイナが潔い家庭を造るに至る事や、其他の面白き事件に含ませて、婦人を敎へてあるのです。婦人の方の讀むべき小說は、本書の外にはありません。

文學士　内ケ崎作三郎先生著

人生と文學

金八十錢　郵税八錢

雄辨を論じたりする雄健な文章は勿論、著者の庭の花壇に咲きたる春秋の草花の品さだめ、猪苗代湖の夕べの麗しき景を叙したる文、敬虔なるバンヤンの性行を詳く說いた傳や、其外いろいろに面白き有益なる文章を輯めたのであります。剛きうちに柔かく、猛きうちに優しみある學士の文は、本誌の讀者の必ず讀み給はずして置かれぬもので御座います。

東京京橋尾張町二丁目

警醒社書店

振替五五参

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

東伏見宮妃殿下
の御愛讀を辱ふす

入會の最好機今日直ちに入會せよ

內容斯の如く豐富

壹ケ年修了

女子手藝講義錄

裁縫科(和服洋服) 編物科(各種) 組糸科(各種)
刺繡科(和洋各種) 袋物科(各種) 造花科(花卉果實)
割烹科(和洋料理 和洋菓子) 細工物科(撮細工、綿細工、瓶細工、裁縫細工、押繪接物細工)
手藝用圖画科(用器畫、配合法、運筆寫生法圖案法) 手藝教授法……
其他課外講義數種

共立女子職業學校
櫻友會內
女子手藝普及會編

入會者の質問は毎號誌上を以て懇切叮寧に解答をなす
優待會員の製作品は審査の上賞品を呈す
壹ケ月入會費 僅に金參拾錢 ●壹ケ年會費 金參圓二十四錢 ●半ケ年會費 金壹圓七十錢
日本の婦人は如何なる事情ありとも此の有益なる講義錄を
家庭に備へる必要あり(內容見本入會規定無代進呈)
小中等教員受驗を受けんとする婦人は速に入會せよ

機敏に世の流行を逐うは本會の獨得

入會申込所 東京日本橋角 大倉書店
▶振替口座東京二三八番◀ ▶電話本局四一四番◀

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最も摯實に最も親切なる現代婦人の伴侶

婦人くらぶ

六月一日 第參卷第六號 定價十五錢 郵稅一錢半 六冊郵稅共九十錢 十二冊前金郵稅共壹圓七十四錢

◎三人の娘を別々の學校へ入れた理由……子爵 黑田和志

▲我子を初めて學校に入れた日……東郷昌武

◎歡び多き春の祭……姉崎嘲風

▲內地と異た樺太の奥の生活……中村梅子

◎恐しい誘惑に罹た私の友達……あちさゐ

◎女學校卒業より結婚までの間……宮田脩

▲名家の奥向……大伴露子

◎佐久間艇長の遺孤……記者

◎繼母となつての二年間……三輪田秀子

本誌を知らざる婦人ありや

◎亡妻の思ひ出……幸田露伴

▲口入業者の見たる女中……壽し屋主人

◎京都の女學生……金子さつね

◎貧乏な家から出た大美術家……江原素六

▲此頃咲いてゐる花の手入……妙華園主人

◎女子大學寮の裏面……夢の浮橋

◎やどり木の夏子……德富芦花

◎余が長子にさせた理想的の自由結婚……子爵 加納久宣

▲壁土の持て居る毒……田代醫學博士

東京市神田區小川町二丁目拾番地 紫明社發行 (電話本局三六八四番 振替口座一七五五四番)

發行部數激增賣切れざる內購入あれ

婦女界

一日發行　第一卷第四號　六月號　本日出來　定價　一冊十五錢　一ヶ年十二冊一圓七十五錢郵稅共

▲春日局の傳

▲女子の爲に帝國大學の門戶を開放すべし……女子高等師範學校長　中川謙次郎

▼特志看護婦として働いたる實驗…目賀田夫人
▼渡淸三年間の苦心と成功の實驗…鶴川光子
▼女子職業としての郵便局雇員…坂野局長
▼荷車の後押をして成業の經驗…吉田島子

◉竹田宮妃昌子內親王殿下の御平生…
◉佐久間海軍大尉の壯烈なる最後と我母の教訓　藤井中將
◉至誠を欠ける日本婦人の交際　新渡戶博士

▲婦人は椽の下の力持でなければならぬ………高島平三郎

大附錄

三代將軍家光公より春日局に贈られたる書狀

▲私が尼になりし動機と女子大學卒業までの經路……五十嵐敎山

◉六人の子女を養育しながら事業を再興した寡婦
◉中毒に對する手當は如何にすべきか
◉入梅期に於ける衣服調度の手當法…

▲六月中に注意すべき婦人病　山本學士

▲お祭りと子供の受くる感化　姉崎博士

▼夏季の化粧は如何にすべきか……遠藤はつ子
▼夏季の衣服は如何にすべきか……久保田米齋
▼良人の心を慰めん爲め修養した…江木夫人
▼神棚や佛檀の無い家は駄目なり…下田次郎

▲女丈夫鶴女

東京神田表神保町　同文館　東京振替一三五一番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

責任ある言行

安井哲

世の中が次第に忙しくなつて來、又生存競爭が烈しくなつてまゐりますと、吾々は不知不識一時的の生活に甘んずる樣になります。卽ち充分に思慮せずに言葉を吐き、無責任な約束を取結ぶといふ樣になります。少しく注意して周圍の人々を御覽なさい。眞に誠意と同情とを以て、他人に對する人が幾許ありますか。昔の人は恩義を重んじ、主君の信任や、友人の信義に對して、終始一貫之れに報ぜんと致しました。今は人を用ふるに必しも眞の信用を以てせず、自分の利害を標準として、他人の進退を決する事もあるやうな輕薄な世の中になつてまゐりましたから、吾身を忘れて公事に盡さんといふ念を有つ者が次第に減じて來ましたのは、誠に止を得ぬ次第であります。

又友人に對しても其通りで、吾利益の爲めには年來の友を棄てる事をも敢て辭しません。況して友人が誤つて惡しき世評でも受くる樣な場合には、忽ち仇敵と化して之れを惡しざまに批評する樣な、無慈悲な行をする者も少くはありません。社會一般が此の如く自己の發展と幸福とに盡く注意を集めて、他を省みぬ樣になつて來ますと、此中に住む者は、自然に其影響を受け、誠實な心狀を失ひます。そこで教育に從事する者も、宗教信者と自稱する者も、慈善事業に關係する者も、時とすれば此風潮に卷き込まれて、不知不識吾從事する仕事の性質や、吾主張と反對の生活をなす樣になります。

其最甚しい例は近時の新聞雜誌であります。勿論多數の中には、善良な者も少くはありませんけれども、中には純然たる營業的の者があつて、一枚でも、一部でも多く賣らんとする爲めに、卑劣手段を採る樣になり、終には無垢の人々の名譽を故意に傷けても、又讀者の趣味を下劣に導いても、少しも不快を感せぬ程に、良心を鈍らした記者が出來る樣になりました。實に悲しむべき現象では御座いませんか。苟も他人を指導しやうとする者は、同情ある態度を取らねばならぬのみならず、自分自身も指導者たるべき資格を備へねばならぬのは無論であります。自分の下等な人格を公表し、他人に侮辱を與へてまでも、金錢上の利益を爭ふ價がありませうか。

嗚呼かゝる社會に住んで、公德を尊び、社會を改善しやうといふ事は、實に困難な問題であります。そこで宗教家とか教育家とか稱せらるゝ人々は、非常の覺悟を以て之れに當らねばなりません。卽ち徒に形式的の傳道や教育でなく、根本的に其目的を實現して、自分自身に善良な、誠實な、熱心な、親切な者となつて、口で說くよりも先づ行はんと努むる事が肝要であります。然るに吾々は往々社會の感化を受けて、不知不識自利的の生活をなし、他人に對して冷淡な行爲をし、又は無責任な言葉を吐いても、少しも耻ぢぬ事があります。

人を教導する職にある者は、或場合に起つた一時の感情や出來心などで輕々しく他人に約束したり、又は無意味に慰藉の言葉などを發すべき者ではありません。一度約した事は、後に至つて假令如何なる不都合が生じても、必ず實行せねばならず萬一止を得ず破約する場合には、其理由を明かにして之れを謝するのは當然であります。而も其相手の彼誰には決して關係致しません。又一度慰めを與へた人には終始一貫深く同情を注ぐのが人情であります。一時心にもない美くしい言葉を以て他人を喜ばしても、後に至つて全く正反對の取扱を爲すが如きは、輕薄な性情を表はす者で、かゝる人は到底他人の信用を受くる事は出來ません。

吾々日本人は感情的の人種に屬して居りますから、動もす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れば情に熱し易く、深い思慮も廻らさずに、事を計畫したり約束を致したりしますから、後に至つて是等を實行繼續する事が困難になる場合があります。殊に婦人には此傾向が一層烈しく、前後の關係を充分に思ひ廻らして、事を判斷するよりも、寧一時的に事を處置しやうと致しますので、往々事業の失敗を來たしたり、心ある者の信用を失ふといふ様になる事があります。之れを一方から申せば、智識の淺薄であるといふ事と、又一方からいふと感情的であるといふ事に歸するのであります。例へば何かの會を起すにしても、其會の目的を明かにし、其目的を達する最良の方法を熟慮し、之れを維持發展する様に努むるには、少からざる智識と、決心と、思慮とを要します。然るに一時の感情に熱したり、又は名譽心の刺戟に驅られたりして、新に會を起し、會員を募集しても、計畫が不充分であつたり、會員の興味に適合しなかつたり致しますと、發起人初め皆有名無實の會員で、少しも會員たるの義務を果さず、終には其儘會を廢するに至る事があります。

凡そ事を爲すには、他人の利益の爲め、社會の幸福の爲めでなければ、眞の成功を出來ません。然るに吾々は常に自分を中心として物事を處置致しますから、無責任な行爲をなす様になり、意味もない言葉をも用ふる様になるのであります。

私は此點に於ては最も保守的で、而も最も眞面目な英國婦人を愛するのであります。彼等は決してお世辭を以て他人の意を迎へませんけれども、誠意を以て何十年の交際を續け、又容易に事を初めませんけれども、一度初めれば眞面目に之れを繼續します。其故に何の報酬もなく、而も旅費自辨で種々の公共事業に盡力する人もあり、又自費用を出だして名士を招待し、そして吾屬する町村民の利益を圖る篤志家もあります。かゝる人々は決して名譽を得んが爲めにするのではありません。同胞社會に對する愛情から、自然かゝる善行を爲すに至るのであります。

要するに相應の教育を受けた者や、人々の尊敬を受くる位地身分を有する人々や、高尚な理想を抱いて居る人々、此忙しい世の中に處しては、折々默思の時間を作り、常に其責任のある所を自覺し、眞に誠意を以て其職に從事して居るか、或は又心ならずも冷淡無慈悲の態度を以て、他人に接しては居らぬかといふ事を反省する必要があると思ひます。之れと同時に常に自身以上の大人物に觸れて、自然に我の小なる事を認めるのが必要であります。自分天下に爲りますと、往々見苦しい言行矛盾の生活や、高慢冷酷な行爲をして得意がる様になるのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學界の現狀と婦人の覺醒

宮田脩

▼高等女學校學則改革案

二三年この方高等女學校及同程度以上の學校に入學する生徒數は、非常に減少した。之は一般社會の經濟的事情に原因する事と思はれるから、まあ致方ないと云はなければならぬ然し茲に尤も憂ふ可きは啻に其數に於て減少したのみでなく其實質內容に於ても漸次低下退步しつゝあるやに思はれる事である。卽ち女子大學、女子高等師範乃至は高等女學校と云ふやうな學科を主として頭を作る學校に入つて學ぶ者よりも、裁縫とか料理とか技術を主として腕を作る技藝學校に入る者が多いといふ現象を見ても、這般の消息が伺はれる事と思ふ。なほ此現象の好個の證左として擧げ得可きは、最近の一大問題たりし學制改革案中、高等女學校に關する事項の經過である。該案によると從來の技藝科を改めて家政科としやうと云ふのである。家政科と云へば名も多少立派であるから、內容も從つて改善される處があるかと思つてゐた。處が事實は之と反對で、技藝科では名が惡いから改めたと云ふまでのことであつた。

從來技藝科なるものが高等女學校の本領に添ふ可きものか否かゝ已に疑問であつた。卽ち高等女學校は女子に高等普通の學業を授くるを以て目的とする場處であつて、之は學則が明かに定めて居る處である。だから裁縫や料理などの技術を專ら敎授して、夫で滿足す可きものでない事は十分明亮な事である。夫れ故高等女學校の一隅をかして便宜上之を存在せしむるのは尙ほ可なりであるが、今回の案の樣に獨立して高等女學校の名目の下に置く事を許す如きは、寧ろ原則に違反する嫌があると云ひ得られはしまいか。とにかく該案が行は

れるとすれば之が爲めに女子教育が蒙る影響は不知不識の間に、其内容の低落を招ぎ延て一般の教育程度を減退せしむることになると思ふ。

因に云ふが該案が發表されると、世間は頓に喧囂を極め、甲論乙駁殆んど鼎を覆したやうな騒であつた。而して其中最も賑であつたのは、中學及高等中學の年限の短縮乃至其連絡に在つた。尤も是が該案の骨子であるから、議論の集注が此處に在るのも亦已を得ぬが、其喧囂の度に比して餘りにアツケなく思はれたのは、前述の高等女學校に關する問題であつた。而して世間でも何等怪しむものがないと云ふに至つては我國に於ける女子教育の價値も、略ぼ推察されると思ふ。

▼女子大學の通俗化

なほ予は予の注意を女子大學の近事にも拂つて見たい。同校では此頃其學則の一部を改正して、一二學科の程度を通俗化したとか云ふことである。どれほどの程度に改正したか、また其目的が何處に在るかは不明であるが、女子大學は日本に於ける女子教育最高の學府であるべきだから、飽くまで犯すべからざる權威を以て女子其ものゝ品格を高め、位置を進める機關として維持せられん事を望んでおつたのに、予が耳にした此度の改正は向上でなくて低下、進歩でなくて退歩、專門的でなくて通俗的になつた傾向を觀視する事が出來ると思ふ。之れ然し一は時代の影響の致す處なれば、偏に學校當局者のみを責むる事は出來ないが、兎に角女子一般の學問界の傾向が、單に實際的通俗的にのみ流れて時俗の一顰一笑を顧慮して行かねばならぬと云ふなら、是は女學界一般に渉つて容易ならぬ問題であると思ふ。

元より予は悉くの高等女學校卒業生が、踵を接して女子高等師範なり女子大學なりに學ぶことを唱へるやうな、そんな無謀な考は持つて居ない。けれど其人物、其境遇の如何によつては、恰も男子にして女子の仕事をするものが有る様に、女子も亦進んで男子と共に專門的の研究に從事するものが有つて然るべしだと考へる。而して高等教育を受けることが、必しも所謂良妻賢母になることゝ杆格するものでないと思ふて居る。だから次第によつては將來歐米の諸國と共に、我が諸大學も女子の爲めに聽講を許して貰うがよいと思ふのだ。況んや女子の爲めに特設された一大學の如きは、時俗に超越して何等の憚もなく專門的の教育を施し得らるゝ場處にしておきたいと思ふ。けれど現今の女學界は果して女子大學の當局者に、超越的態度をとらしめ得るだらうか。

▼雜誌及び講演會に表はれたる現象

此の傾向は又坊間の婦人雜誌編輯の上にもよく表はれてお

る。雜誌記者の訪問を受けた場合に、自ら筆を執つて書いて上げませうと云ふと、却つて斷られる時がある。之は編輯上長短の參酌や文句の冗長をさけるなど、手心の出來る余裕を保留しておかうとする記者の策でもあるし、又女學生の爲め若しくは婦人の爲めを思ふての吾々の意見が難解に過ぎて一般讀者に向かないといふ事も源因しておるらしい。なる程雜誌の賣高を増さんが爲めには通俗を主として讀者の範圍を擴大する事が必要なるには相違ないが、吾々の目から見るともう少し讀み堪へのある記事が載つても、雜誌の賣れ行きがよいやうにしたいものである。とにかく今の雜誌の傾向を見ても女學界一般の趨勢が如何に低落しつゝあるかを見るに足ると思ふ。

なほもう一つ云ふと、女子の爲めに學術の講演會などを開いても、案外聽講者が少いことである。私も曾つて此學校で五六回知名の諸先生を招聘して開催して見たが、義務的に出席する生徒を除いては他から一向來ないので、畢竟位置が惡いからと感じてやめてしまつた。處が此頃下田敎授がやつて居らるゝ講演會などの話を聞くのに、位置も割合よく敎授も大に骨打つて演題なども適當のものを選んで居らるゝに拘らず、矢張り來會者が割合少いと云ふことだ。是等を見ても女子其人の知識欲が卜されることゝ思ふ。

▼高等敎育不必要論と女子の覺醒

如何にして婦人の人格を高め、如何にして社界上に於ける婦人の地位を高尙ならしむべかに就て努力しておる吾々にとりては、斯る現象は甚だ面白くない事である、斯る現象の表れて來るに從つて女子の高等敎育は絕對に不必要だと云ふ極端な論が益々高調せられて來るのを見るは實は遺憾至極ではあるまいか。然し飜つて考ふると女學界一般の傾向が現今婦人の希望に應じたものとすれば、不必要論者にも尙多少の權利を與へねばならぬ樣にも思はれる。此點より考ふれば一般趨勢の壓迫を論ずるよりも、婦人自身の反省と奮起とを冀はなければならぬ。婦人の使命が如上の現象にて滿足されべきものであるなら兎も角、過去に於ける婦人の活動に照らして見、又は時世の進運より見ても女子敎育がかく低落して來るといふ事は、斷じて不可であると思ふ。

社會は浸々として日進月歩を見る時に於て、獨り女學界のみ簡易な實用的の敎育、淺薄な間に合せ的の敎育にのみ滿足するが如きは、全然其意を得ざる處である。凡そ社界上の地位を得るには、それだけの素質がなければならぬ。殊に共に與に働く可き男子の方面を見れば如何なる點に於ても激甚なる進歩を繼續して來ておるのに、女子が之に隨伴する程發達し得ぬのは、決して健全なる現象といふ事は出來ない。

此の現象を救濟せんとするには世の俗論打破に力むる教育家の努力も必要であるけれども、其道を開くは婦人自身でなければならぬ。今に於て充分覺醒し更に進んだ教育を受けて自己の人格を高めると同時に、ゆく／＼は社界上の地位を高める素質を造る事に力めねばならぬ。

一般婦人にその覺醒を勸告するに當つて更に一言したいと思ふ。一體女子の教育が何故に思ふ樣に隆盛にならないのかといふと、之には二の原因があると思ふ。卽ち一は從來の婦人が自ら奮發して研磨する事が非常に尠かつた事と、他は自己の奮闘によりて成功を齎ち得、社界からも立派な人物として尊敬せらるべき人が、着實なる蓄積を通り越して、婦人には似合しからぬ突飛な行動を敢てしたが爲めに、徒らに世の嗤笑と顰蹙とを買ふに至つた事とである。前者を見た論者は女子は到底學問に堪へないものとなし、後者を見たものは教育は却つて有害なりとの斷定を與ふる樣になつたのである。議論としては誠に淺薄であるが、之れ等が原因して今日實際上の趨勢を造つたのである。

夫れ故これからの婦人は飽く迄着實の風を失はず忍耐と熱心とを以て此等の俗論を打ち破り、自ら進み自ら護り將來の蓄積の爲めに大に力を用ゐねばならぬ。女子教育を今日の狀態のまゝに止めておくか否はか實に女子其人の上にある。

（談話筆記、校閲濟）

慈愛館を訪ふ

一記者

矢島楫子刀自を會長とする婦人矯風會では憂き河竹の濁流に沈みて浮ぶ瀬もない可憐な女子を助け上げて、僻んだ不良な性質を矯め直し、正當に世渡りが出來るだけのたつきを與へておる事は、かね／＼聞いておりましたので、是非一度は御訪ねして現在の樣子を拜見したいものと思つておりました處、先月八日に柏木の華洲園に開かれた京濱組合教會連合懇親會で、海老名御夫人の御紹介により、同會母の課長をしておいでになる粟屋榮子樣に御目にかゝる事が出來まして、御訪ねしたい希望を述べますと、幸ひ明日は先達て大隈伯爵の御庭で矯風會の園遊會を開いた時の慰勞會を慈愛館で開くことになつておりますから、多くの委員の方々も御出席になる事でもあるし、かた／＼御都合がよかろうとの御話で、それでは明日とお約束申したので御座いました。

家を出るときは傘の用意をと思ふ程のあやしい空合でございましたが、それでも如何やら持ち合つて、つゝじ見物の人々で甲武線の電車は何れも滿員といふ姿　大久保の停車場で吐き出されたる群衆の扨ても多い事。その大久保の鐵道線路

を蹈み切って直ぐに右へ折れると、俄かには分らぬ程の小さい黒くなつた板に慈愛館の表札が見ゐます。(此處が多分裏門でございませう)。門を這入ると茅葺の建物が一軒、その横手を廻ると、お茶や豌豆や馬鈴薯などが作つてある長方形の畑の中央を通つておる小路の盡頭に、赤く塗つた木造の西洋家が見ゐます。之が敎師館で、續いて二階建の一棟、之が生徒館であります。着きましたのが午後の二時、郊外新綠の色まことに鮮かで而も寂しい程の閑靜。まづいゝ場所だと感じました。刺を栗原樣に通じて御面會を求めまして、御挨拶もすみますと、おすしや草餅といろ／＼おもてなし下さるにお忙しい處を痛み入つた事でした。此の御馳走の材料が（竹の子も、草も、御茶も）悉く慈愛館でとれのだと聞きましたうれしさに、遠慮なしに殘らず頂戴致しました。隣のお室には委員の方々のお睦ましそうなおん物語に花が咲いて、折々は耳をそばたてたい樣な笑聲も漏れて聞えました。

矢島先生は暫時御用事とあつて、河原さん（直接慈愛館内の監督に當つておいてになる方）に御話を承る。

慈愛館は婦人として最も耻づ可き淵に陷つた婦人を專ら救濟する爲めに設立された處で御座いまして、救世軍の婦人ホームと大概似た仕事をしておりますが、只違ひまする處は本館では女の貞操に關しての缺陷を矯正する事に限られておる事であります。そう云ふ婦人を生徒として現在收容しておりますもの八名、午前は編物を敎授し午後は裁縫夜は又編物といふ順序でやつております。其仕事の出來上り高に應じて自分の收入も增して來ますので、自然競爭の姿となり、各自が非常に熱心に勵んでおります。仕事は外國からも注文があるので中々忙しい位です、精神的敎育として朝夕二回何れも七時から禮拜祈禱をやつております。敎師は敎師館においでになるマコーレーさんで御座います。日曜日はレバノン敎會と麹町敎會とに分れて參ります、夜には又祈禱會を開くので御座います。何しろ既に醜業界に身を沈めて永い年を其間に送つて來た者や、又は幼い時から慘忍な運命に弄ばれて貞操の觀念などは持たないといふ者が多いのですから、其救濟感化といふ事も實際並大抵な事ではありません。收容生徒の十分の一も救濟さるればそれでいゝ位の目安でございましたが案外成績がよく、私が此處を受け持つ樣になりましてからも八人はお嫁にやり、看護婦に仕立たのもあり又は下女に住み込ませたのもあります。先達てお嫁にやりましたものから夫婦の寫眞を贈つてくれましたが、何となくなつかしいうれしい心持ちが致した事で御座います、其他親許に歸した者も澤山御座います。もと／＼何處へ出して大丈夫といふ鑑定が付かない中は斷じて世に出さい事に致して置きますから、感化

の年數も中々長い事を要します。性質もよく多少敎育のあるものなら一二年で立派な婦人になりますが、永くども五六年の後には大概矯正する事が出來ます。之も年齡に關係しまして十六歲から廿七八歲迄なら何とか工夫が附きますが、それを超えては中々むづかしいやうで御座います。

この御話の間にも白の前垂をした生徒さんがお茶の周旋にあちこち立ち働かるゝを見うけました。多くは二十歲を超ねておられまいと見らるゝ若い方許り、それにしては寂しい顏と見るにつけても、慘らしい運命の手や罪惡の眞黑な影の恐しさに想ひ到らざるを得ませんでした。之が尋常の家庭に育つた人なら、冷い世の風をお父さんやお母さんの溫き胸に塞いで、散る花にも行く春の想はつらかるまじと思はれますに、同じ若さを、同じ身を、救ひ上げられねばならぬ程の身のさだめ、誠にお可愛相だと感じ

ました。一かどの敎育もあり道德堅固と呼ばれた人々でさへえて陥りがちな道と聞きますに、それを世を知らぬ年若き女の身の、口甘く誘ふ人の胸に毒ありとも悟らずして、邪路に陥る人があつたしましたら、嗚呼世にこれより恐ろしい事が御座いませうか。知らぬは罪だと申しますが、知らしめなかつた其兩親こそ却つて可愛い吾子をあらぬ道に陥るゝ其人ではないかと思はれます。それにしても悲しい事に世は斯うして迷つた羊を驅り集めて、幾重の鎖で縛りつけ、悶がけば悶くほど鎖が身に食入のを余處目に見て永い間に拔く可らざる醜汚な性情を馴致して仕舞ふ社會がございます。其社界を置く事が市町村を隆盛ならしむる唯一の方策だと勘違ひしておる人々も尠くないと聞くに至つては、吾國の道德的地位はまだ〳〵低いと云はれても致し方がないかも知れません。斯の時に於て八人なり十人なり、迷へる羊を醜社會から助け上げようと云ふ事は非常に

尊い事業で御座います、私は心竊かに此事業の確實なる發展を祈らずにはおられませんでした。

其處へ矢島老刀自が御出になつたので一寸の間を御目にかゝる事が出來ました。大分御老體のやうに見られますが、それでも中々の御元氣、私を引いての御話によると、矯風會設立當時の目的は婦人の貞操が亂れておるを慨いて專ら之を救濟しようといふ覺悟でございましたそうな。吾國の婦人が盛に海外に出稼して醜業を營んで、世界到る處に日本の國名を恥かしめておるのは、一は此等の婦人に貞操の觀念が尠いのと一は國内に於て適當な婦人の職業がないとに原因しておる事であるから、此等の缺陷を充たす爲めといふのが主なる動機だつたそうで御座います。矢島刀自が十年一日の如く有妻姦に關する法律改正請願を提出しておいでになる事などより徹して、刀自の事業の第一歩が矢張り此方面に表れて來た事は誠に故ある事だと存じます。明治二十一年に土地を買つて三十二年に現在の家屋を建て、三十五年には財團法人とし十四名の委員によりて經營せらるゝ事となりました。土地の總坪數千五百坪、建坪は幾何か聞き漏しましたが、土地は巾の狹い細い長いものですが、近隣が概ね畑地なので擴張の便宜は充分あるやうに見受けました。通常の經營費は内外キリスト教徒婦人矯風會と米國クリチントン、ミッションより補助を受けておりますが、此の比較的立派な建物は米國よりの寄附金でなつたものとの事でございます。……何卒此種の慈善事業が日本人の手でドシ／＼出來るやうになりたいものでございます……。慈善館開設以後百人の女子を取り扱つた中、十五人は一家の主婦となり、其他は前の河原さんの御話にある通り種々な方面に出て行き或は親許に歸したとの事で御座いました。最も成功し易いのは、辛棒強き女子なそうで、醜業に從事してゐても、其年季を務め上げてから來たものは、非常に成績もよいけれど、自由廢業などして來た女は感化が困難だとの御話に、成る程その社會にも斯うした道德があるものと一寸面白く思ひました。

「どうもよく逃げ出しますよ」との刀自の一句に、此の事業に常ならぬ困難が伴つておる事を思はずにおられませんでした。「こゝ迄維持して來るには幾多の艱難を嘗めたか知れません。今から考へてみるとどうしてやれたかと思はれる程の事で、所詮一個人の事業としては成功は覺束なかつたのですか信仰の力と内外の同情で漸やく此處まで漕ぎつけたのでございます。事業が緒にもつかぬ中に多數の申込人を引き受けて、却つて其爲めに失敗を招ぐやうな事があつてはならぬと、あまり世に知れないようにして來た位の事でした。それでも今年の三月には内務大臣から事業奬勵の爲めに二百圓の御下附金

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を頂戴した樣な有難い仕合になつてまゐりましたので、益々奮勵して一層の成功を收めたいと心がけております」。
　お話が切れると寫眞撮影と云ふ事になり、皆々御庭の方にお出になる。濟むのを待つて河原さんに御案内を乞うて室々を見せて頂きました。二階は十疊八疊六疊取りませて凡て九室、下が六室と思ひました。障子も疊も新らしくはないけれど、穴一つ塵一本止めぬ奇麗さ、平生のお心懸けも察せられる事でした。四十人を收容し得る處へ只今は八人の生徒きりゐないので、二階はあまり使はずに置くとのお話しで、それかあらぬか机は只一つしか見ゑませんでした。斯んなにいゝ室が幾つも明いておるなら、教會で行はれる諸種の會合……たとへば談話會とか又は懇親會とかに……此處を供して、八人の生徒と共々に語りもし樂しみもし祈りもするといふ風になりましたなら、隔離の恨みも生徒の胸からとれ、正しき人の行爲、溫き人の情にも接する機會も自然に多くなる事で御座いませう。感慨多き慈愛館を辭しました時が四時、牧師館の裏手の芝生にしるこの摸擬店が出來て、生徒方が客を待つておいでのやうで御座いました。一つ如何とおすゝめ下さる栗屋樣の御親切の御言葉も、降り出しさうな空合に恐れて、強いて御辭退申して歸路に着きますと、垣一重の外に擴がる戸山の原から、喇叭の聲、之も大方練兵の終りを告ぐる響で御座いませう。

豐玉姫の獨白

淺山　倘

『沖つ鳥鴨着く島にわが寐ねし妹は忘れじ
世のことごとに』
あはれなづかしの御歌や。ゆかしの御かへしや。

三年は短かき春の夜の、さめて甲斐なき
夢の嘆き。――したはしきはかの國。
こひしきはわが君。呪はれたるはわが身

野には柔き草ありき。山には茂りたる
木の葉ありき。
日の光りよ。風のそよぎよ。
流れゆく小川のさゝやきよ。ましで忘られぬは
かの濱邊。ふきあへぬ茅屋の窓に散る潮の、
花の行衞は大わだや。浪の穗に浮く白帆の影、
白帆をめぐる鳥の影。

潮歌濤韻、夜に晝にたゞ幸福の室、

歡樂の家とのみ、夢さへに安かりし二夜三夜、
四夜はうらめしや、うらめしや、
板屏の際にふと見つる君の面影、
君は見たまひけん、はづかし、はづかし
大蛇のわが姿。

はづかしきはわが身、うらめしきは君、
うらめし、はづかし、げにはづかし
うらめしさのみに。
かの家を、かの國を、かの君をあとにして
こゝの濱邊に獨り寐の
枕に千鳥を聞くや幾年。

日に添へて、月に添へて
なつかしきはかの家。こひしきはかの君
あはれ鯛よ、わが君の釣を、今一度得てこよや。

げにはじめて見まつりし折よ。
赤玉は緒さへ光れど白玉の
たふとかりける君が容儀に、胸のとゞろき、
頰のほてり、われながらはづかしきまでの心の亂れ。

やがて高砂の浦の松かげに
百年の落葉拾はんと、こめし契は村雨の
あとに消え行く虹の榮。——井の上のかつら
色變へで昔乍らの色なるぞ憂き。

波の上に沈み行く三日月の影、
夢のやうなる濤のひゞき。ありしかの國の
かの宵のさまに似たるかな。
あゝ今宵。たまはりしみ歌誦じて
心行くまで君戀ふる涙のごはん。

『沖つ鳥鴨着く島にわが寐ねし妹は忘れじ
世のことごとに』
（古事記海の幸山の幸參照）

ユダヤの女

（アナトール、フランス）

別所梅之助譯

『上』

皇帝タイベリアスが御世しらすころ、マルセイユにレイタ、

アシリアといふ婦人がをつた。この女は、ヘルピアスといふローマの貴族に嫁いで、數年たつが、子寶がない。それで、お母さんになりたいと、しきりに焦つたが、その甲斐はなかつた。ある日のこと、神詣にゆくと、お宮の入口に、ごた／＼と人がゐる。それが半身裸體で、その上癩病だの腫物だのに冒されて、衰へはててをる。レイタはおそろしさに石段の初の一級に足をかけたまゝ、立ちどまつてしまつた。女はあはれを知らぬものではなかつた、このあやしげな者どもをかあいさうなと思つたが、それでもこはかつた。なにしろ、こゝに集つてゐるやうな、みじめな乞食は、今まで見たこともない。鉛のやうな肌をして、活氣がない。足下には空の頭陀袋が、開かれたまゝである。レイタは靑くなつて、胸に手を當てた。進みもやらず、逃げもやらず、手足が自由にならなくなるかと覺えた。その時、目覺むるばかり美しい女が、この運拙き者の中から進み出でて、レイタに近づいた。

　嚴かな而も優しい聲で、見馴れぬ女は語り出した。お若い方、お案じなさいますな。こゝに居ります人たちは、むごい事などいたすものでは御座いませぬ。いづれも虛僞や、惡事などはうち捨てゝ、眞と愛とを抱いてをりますもの。私共はユダヤから來ました。神樣のおひとり子は、あすこでお沒れなされ、お甦り遊ばされました。あの方樣が父の御神の右にお昇りなされたのち、方樣を信じてをりますものはいろいろな酷い目にあひました。ステパノは、皆に石で打ち殺されました。私共は、神主たちに、帆も、舵もない舟にのせられ八重の潮路につゆの藻屑と流されまして。それを、あの方樣の、おかげによりまして、私共を愛しくお思ひ下さる神樣が御情あつく、こゝの港にお導き下さいました。あゝ、マルセーユの人々は、胴慾で、無慈悲で、偶像に仕へてをらるゝ。イエスのお弟子が餓ゑ凍えて居るのを捨て殺しになさらうとする。いや土地の方が淸いとお云ひなさるこのれ祉に逃げこまなかつたら、すこしの所で私共は、あの暗い牢に引かれるので御座いました。私共をお迎へ下された方が、土地の衆によいでせうに、私共はよい音信をもつて參りましたので御座います。

　かく言つて、異邦の女は、群の方へ向き手をあげて、あれこれと一人々々に指示めした。

　御婦人、あの明かな眼眸で、いまあなたの方を見かへりました老人は、セドンと申します。生れつきの盲目でしたのを師の君がお癒しになりました。そのセドン、今では、見ゆるものをも、見ねぬものをも、おなじやうに鮮に、見て居ります。もひとり、あの深山の雪のやうに白い鬚の老人は、マキシミンと申します。あの年若なのに大層痩れてをるのは、私

の兄弟で御座います。あれは、エルサレムに大分の財産を持つてをりました。あれの傍にたつてをりますのは、私の姉のマルタと、まめやかな婢のマンチルラとで御座います、家豊かな頃には、ベタニヤの岡の邊で、オレアの實をつんだものでした。

レイタは尋ねた。それでそなたは、そんなに聲の優しい、面輪の美しいそなたは、何といふの。

ユダヤの女は答へた。

私は、マグダラのマリアと申します。あなたのお召に黄金の縫のしてありますのと、あなたの御樣子のおのづと大樣でおありなさるのとで、この邑の御歴々の奥方と、心づきました。それ故私はお願ひ申します。イエス、キリストの弟子たちのために御主人のお心をお動し下さい。そのお金持の御主人にかう仰いませ。「あれらは裸でをりまする、衣服を着せておやりなされ、餓ゑ、渇いてをりまする、食物や、飲料をお遣りなされ、さすれば神樣が、御名の爲にお借なされたものを御國で、私共にお返しなさいませうと。(マタイ五〇三―以下參照)

レイタは答へた。

マリアよ私はそなたの頼み通りにしませう。私の夫はヘルピアスといつて、貴い身分、それはこの邑で、指折りのお金持です。私をいとしんで、もう長い間、私の望む事をいやなとと仰しやらぬ。あゝ、そなたのお連をみて、恐ろしさにはいつとしたが、それももう靜まつた。私はあの人だちの手足が腫物でよごれてゐても、その傍を通つていけるよ。どれ、私のお願をかなへて下さるやうに、常世の神々の廣前に出て、お祈り申さう。あゝ神々樣も、これまでおしるしがなかつたが。

マリアは兩の腕を擴げて、行手を遮つた。

御婦人、むなしき偶像を拜むのは、おやめなされ。石の像に望や、生命の言をお求めなさるな。神樣は唯おひとりおはします。私はあの方樣の御足をこの髪の毛でお拭ひ申しました。かういつて、女の眼は、あらしの日の空のやうに黒く閃き、涙がはら〳〵とおちて來た。

レイタは心中に思うた。私は、神信心を怠らぬ、私は、まめやかに敎法の儀式に従つてをる。しかし、この女には、愛の神々しさといふ不思議な感じがあるやうだ。

マグダラのマリアは、恍惚としたさまで、いひつゞける。

あの方樣は、天地のまことの神でおありなされた。方樣は、無花果の老樹の葉蔭、門の閾のほとりの床机におかけ遊ばして、比喩をお說きなされた。方樣は、おわかく、お美しくあらせられた。方樣は、愛せらるゝ事をお喜びなさる御樣子であらせられた。夕餐を召上りに、私共の家へお出て遊ばした

時、私は、御足許に侍つてをりました。お言葉は、早瀬の水のやうに、御唇から流れいでた。それで姉が、私の怠慢をとがめて、師の君、私の夕餐を調へまするのを、妹も手傳ひますやう御申しつけ下さいましと、いはれたとき、方様は、お微笑み遊ばして、私の爲に云開をなされ、御許に侍つてゐるまゝでお聴きなされ、そして私がよき方を選んだと仰せられました。（ルカ十、三十八以下参照）

方様を山の中から出たまゝの若い羊飼とのみ思うた人もあつたとか。でも方様の目は、モーセの眉から出たといふ焔と輝いてをられた。お優しさは、夜の平和をしのばせるが、お憤り遊ばすと、鳴る神のはためきよりも恐ろしうおはされた。方様は、賤しい者や、小いものをおいとしみなされた。道をお通り遊ばすと、子どもが駆けよつて、御衣にお縋り申した方様は、アブラハムや、ヤコブの神であらせられた。日をも星をもお造りなされたその御手で、方様は、あの幸ある母たちが、小舎の門口からさし出した嬰兒の頬をそと突いて、おあやしなされた。それで死人をよみがへらしなされた。現在私の連の中にも、およみがへらし下された私の兄弟がをります。御覧じませ、御婦人、ラザロは死の蒼白さを、面影にとゞめてゐます。その目には、黄泉をみた人のおそれが宿つてゐます。

暫しレイタは、聲をきいて、言葉をきかなんだ。やがてレイタは、そのぱつちりした目と、小い滑らかな額とを、ユダヤの女にむけた。

マリア、私は、御先祖様のつゝしみ深い信仰をうけついでをる女なの。不信仰は、女性にとつて濟まぬ事、それにローマの貴族の妻ともあるべき者が、今様の法門に随喜するとは、似合ひませぬ。しかし東方に妙なる神々があらせらるゝよしは聞いてゐます。マリア、そなたの神も、その一柱であらうそなたは、その神が、小い子どもを可愛がり、お母さんが抱えてをるのを、頬ずりなされたと、おいひだね。して見ると女人を愛護して下さる神様であろう。私は、その神様が、上つ方や、お役人に崇められないのを、殘りをしく思ふよ。さうでなければ、私は、喜んで蜜菓子のお供物を、その神様にさゝげますよ。けれどユダヤのマリアとやら、よくきいておくれ、どうかそなたの愛してをる其の神様に祈つて下さい、私は自分では願ふわけにはいかないからね、私の神々様がおきゝ下さらぬものを私に授けるやうに願つておくれ。レイタは、ためらひながら、かう言つた。そして口籠つて、顔をあかめた。

マリアは熱心に問うた。何です、あなたのたましひが安んじないとは、どのやうなお望みなので御座いますか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

すこしづゝ力を得て、レイタは答へた。

マリア、そなたも女の身、私はそなたを知らないが、女同志、女の秘密を打明けて頼むよ。私は、片づいてから六年になるに、まだ子といふものがない。それが私には、上なくつらい。私は、子がほしい、可愛がりたい。私がまつてをる小いものに對する私の心の愛、それでゐて、いつまでも〳〵子の出來ないこと、私は息がつまつてしまふやうなの。マリアもしそなたの祈願で、その神樣が、私に神が私にお授けなさらぬものを下されたなら、私は、その神樣を、善い神樣と稱へ、それを愛し、お友達にもその神樣を愛するやうにさせませう。お友達は、私共のやうに、若うて、お金があつて、この邑での第一流のお家柄さ。

マグダラのマリアは、嚴かに答へた。

ロマの御婦人、あなたが望んだものを得られたときに、あなたは、イエスの婢となるといふ、この契を覺ゑてゐられますか。

レイタはいつた。覺ゑてゐますとも。まあ、とにかくこの財布をとつて置いて、中のお金を連の衆におわけなさい。さよなら、私は家へ歸ります。かへればすぐ、パンや肉をたんと籠につめて、そなたやお連に送りませう。そなたの兄弟、姉妹、友人などに、おそれずと、隱れ家としたこの神社を出て、朱引そとの木賃宿へゆけとおいひなさい。この邑に勢力のあるヘルピアスが、誰もおまへたちをいぢめないやうにしてあげませう。マリア、神々が擁護なさるであらう。もしこののちそなたが私に會ひたいとおもふ事があらば、通りすがりの人にレイタ、アシリアの家はと、尋ねるがよい。町の人はだれでもすぐ道を知らせてくれますよ。

勵の理想

「僕が誠之學校を下つて中學校に入る時に、僕の先生も中學校の先生になりなすつて、僕が中學校を卒業して高等學校へ入る時に、先生も高等學校の先生になりなすつて、それから僕が高等學校を卒業して大學に入る時に、先生も大學の先生になりなすつて、さうして博士におなりなさるさうれしいな」

おあひなさつた違ひ

此間家の者が「○○樣が盗人におあひなさつたつて本當にお氣の毒な事でした」などゝはなしてゐる處へ勵が來て「○○先生何處で盗人におあひなすつたの？」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

月見草

鈴木重信

坦荷の原に月見草が
咲いたと聞いた夕べ
なづかしい思ひに堪へずして
病室をぬけて出た。

わびしい五月の空のあかねの光が
水のやうに流れて、
いまひときは楢の林が
紫に光る夕であつた。

露草をふんで坂を下りていつた、
坂を斜に流れた日かげの
紫の薊の花を照して
とげ〱しい葉がきら〱と光つて居る。

發電所のわきを拔けて
楢の林の小徑を原へ出た
淡い靄が丘の裾を
林にかけて埋めて居た。

私はバラックの建つて居る
一番高い丘に立つた、
冷い風が心地よく、
新開の町の響が絶わない。

芝原を見渡した
つばなが仄白く生えのびて
はら〱と搖ぐ姿
けれども月見草は見えなかつた。

私は落膽した、かなしくなつた、
そして殆んど草の根を
わけん許りに尋ねた、
鳥が一羽さみしく鳴いていつた。

白いそばの花、草ゑんどう、
をらんだれんげ、藍染草、
花は澤山あつたけれども
月見草の花はなかつた。

楢の林の上をゆるやかに煙が
北へ〱と流れてゆく、
日はもう落ちた、
古い石造の家が暗くなつた。

もう駄目だと思つた、
草がしさ〱して來た、
待つ人にあへなかつた乙女のやうに
心かなしく丘を下りた。

私は首をうなだれ歩いた、
蛙の遠くで鳴く聲、
寺の鐘がしんみりと響く、
寂しい〱思ひのする宵だ。

ふと私の名を呼ぶ人がある、
ふりかへると看護婦が二人居た、
白い衣が林の影に
あざやかに見ゑて居る。

「月見草が咲いて居ますよ」といふ、
二人は一株の月見草を
間にはさんで坐つて居た、
私は吸ひつけられた様にかけつた。

淡い黄の水々しい花、
月まつといふ彼花は
夜な〱の露まださむき今宵、
男々しくも一輪咲いて居る。

いかにも月の世界をながめて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

夢をみて居るやうな其姿
わづかな矜に誘はれて
その果ない運命を知らないのだ。

「かへりませうよね」と看護婦はいふた、
私は月見草と一緒に
夢を見て居た、歸ろうと
立ち上つた、空氣が水のやうだ。

ふと見かへつたときに、花が
和りとしたやうだ、なづかしい宵だ、
西の空に浮んだ月もほんのりと
夢をみてゐるやうだ。

歸るさ看護婦が「月見草は
なづかしい花ですわね」といふた、
私は默つて歩いていつた、
そしてあはれだと思ふた。

かれらは月見草のやうに
淡い矜の心にかられて
あんな生活に入るのだ、
果なき運命はあはれではないか。

そして其矜の心の消えたときに
月見草が萎れた時のやうに
かれらはいひしれぬ
淋しみに打たれるのだ。

月見草が咲かうとするときは
只はなやかな花の姿にあこがれて
月沈むとき已の命の同じく
絶えて了ふ事を思はないのだ。

看護婦もさうだ――
いや多くの女がさうだ
只華かな姿を思うて
夢のやうに廢殘の心に近づくのだ。

月見草をなづかしいわといふた
女の心、私は寂しくなつた、
坂を上つた時に、林の上に
星がギラ〳〵かゞやいてゐた。

山の色

せい子

○
うすくもり肌やゝ寒き五月空袷にほしき山の色かな

○
大利根は奔馬の如く狂ひけり雨雲低う山走る時

○
五月晴白雲遠く山脈は越後につゞき信濃につゞく

○
旅情又も淋しうせまり來ぬ雲行く方よたゞに戀ひしき

○
わかめ賣り越後の海女は上野にやすき生活を今日もあさりて

○
君とある十年もしかず知らず又知られぬ旅の一日の長さ

○
居になれず雨はつゞきぬ行く春をしみ〴〵人の戀ひしき夕

○
繭煮る香胸苦しうも上野の夏は來にけりこゝに我住む

○
淋しさは何時か果つべき白雲のはなれて遠き君思ふかな

○
紫陽花の花の七色七色の果てなん頃と君をまつかな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭

子女教育に對する母の務（其七）

海老名みや子

幼年時代の生活狀態が、其人一生を通して、其性格の素因となる事は、學者の御說を伺ふまでもなく、自己各自が日々に明白に實驗される事であります。つひ此比の事、私は植物園の竹藪に沿ふた裏道を通りました。すふつと冷かな風が汗ばんだ肌を吹くと同時に、何とも云へぬ懐かしい香をりを感じました。恍惚として見あげますと、數百千の、直にのびた竹は、そよ風にざわ〳〵と葉音を立てゝゐます。そが中に、椿の大木に散り殘る紅の二三輪、春の名殘を留めてをります。ア、なんといふ懐かしい氣色でしやう。この匂ひ、此景色、皆私の幼なじみです。又夏の夕べ、小川の邊を散歩する時、ちよろ〳〵と云ふ優しい水のさゝやきをきくと其心地よさ、面白さ、忽ち身は六七才の、少女と化して仕まひます誰しも天然に接しては心地よく、面白く感じないものはありますまいが、このいひしれぬ懐しい、飛びついて握手したいやうな心地は、幼年時代の住ひの賜だと思ひます。私が田舎の空氣を吸ひ、竹藪や野原や、小川と親んだのはわづかに六七才までのことであります。其後は全く此等のものと遠ざかつた都會生活を爲したものでありますのに、四十年の今日尙其場合に於きましてきのふけふの樣な新しい感覺が湧いて來るとは何と恐しい勢力ではありませぬか。衣服に就ても食物に就ても皆此通りです。されば幼年時代の生活狀態は、其人生涯を造り出す源といふてもよいと思ひます。親たるものは子の爲に充分の注意を拂はなければなりませぬ。之れから聊か衣食住の順序をもつて私の考を述べて見たいと思ひます。

▼子供の衣服は自分で縫ひたきもの

幼兒の服裝に就ては、皆樣も種々御研究なされておいでになることゝ思ひますが、或は洋服が輕便で經濟的でよいとおつしやる方があれば、いや、筒袖袴の方は尙輕便でよいとおつしやる方もあります。私はどちらがどうと殆ど其甲乙を見

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

出すことは出來ませぬ。左樣な事は各自の意見にお任せすることゝ致しまして、私は其大體に付て少しく申上ましやう。こゝに先づ第一に氣をつけ度と思ふことは、凡て子供の衣服は、仕立屋其他の人手にかけず、可成宅でする事に仕度ものであります。これは子供の教育上大關係があると思ひます。このおべゝは誰れが縫つたのと子供がきゝますと、これは仕立屋がぬつたのだといひますのと、これはお母樣がぬつた又はお姉さまがこしらへたのだよといふのとは、大變な違ひがあります。自分の着てゐる着ものは、仕立屋がぬつたのだと思ふと、着物はいつも仕立屋へ申付けることの樣に思ひ込んで仕まひます。そうすると大きくなつても手づから丹青して、いろ／＼工夫をこらし、古いものも手を入れて立派にして着やうなどゝいふ樣な趣味はなくなるだらうと思はれますそれと違つて、母樣や姉樣が、いろ／＼の切や反物を擴げて積りものをしたり、仕立ものをしたりしていらつしやるのを見て居ますと、女の兒は見やう見まねで、自分もそういふ事がして見度なるものです。そうすると幼い時から手まめに何かをする習慣がつきまして、知らず／＼の間に一通り手業も呑み込め、同時に經濟思想も養ふ一助となるだらうと思ひます。願はくば洋服も、簡單な子供服位は手づから作らへる樣にしたいものだと思ひます。第一自分で心得ませぬと、柄や

恰好を見立てる事が出來ませぬ。勸工場などにつるしてある樣な服を着せたの程をかしな、見苦しいものはありませぬ。丸で淺草の玉乘そつくりです。それで男兒でも女兒でも若し洋服を着せるとすれば其道に委しい方に相談してトンチンカンのない樣に致しませぬと案外お金をかけて妙なものを作らへ出す事があります。

▼子供の着物は柄と恰好

第二は、可成衣服に金錢を多く費やさない樣にする事であります。どふ云ふものか、日本人は小兒の衣服に莫大の金を費すことを、何とも思はない習慣があります。やれ總模樣だ友禪縮緬だと四拾や五拾のお金を惜しげもなく、初着に費やされる方々も隨分ありますが、これは勿體ないことではありますまいか。昔からの習慣や儀式の樣なものですから、お金の有餘つてる方はお樂しみの一つだと思ひますが、私はマア無駄なことだと考へます。初着は別として、大體に日本人は着物に金をかけ過ぎます。ヤット四五才のまだあんよも危げの子供に、ぼつてりと重い縮緬のお重ねに、小巾とは申せ板の樣な丸帶をおやのにしめ、縮緬のしごきを房々と垂らした姿はそれは／＼可愛らしくて食べたいやうですが、思へば又可愛そうではありませぬか。子供ながらもいゝおべゝを着た

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

浴衣地新柄陳列

見切反物。よせきれ賣出し

六月一日より

夏衣大賣出し

絹張洋傘均一賣出し

壹圓八拾錢
貳圓四拾錢 本品に限り(正午十二時迄)

外賣係 迅速に御用命承り申候
地方係 商品目録書送呈仕候

日本橋區通旅籠町(電車停留所小傳馬町)

(大)

大丸呉服店

電話浪花(八二三一)(六六三)
振替口座(一一五一五)

人道講話

（六月號）

村上博士の講話

◎修養の意義◎修養の必要なる所以—第一號
◎修養の必要なる原理—儒教につきて—佛教につきて—第二號
◎修養の分類—身體に關する修養—技藝に關する修養—知識に關する修養—情操に關する修養—意志に關する修養—最終理想の修養—第三號
◎修養と教育との關係◎修養と道德との關係◎修養と宗教との關係—第四號
◎修養の目的—教育より見たる修養の目的—道德より見たる修養の目的—宗教より見たる修養の目的—教育道德及宗教最終的歸着點—第五號（六月一日發行）
◎感話—趣味多き先生の實感實話

附錄

女誡講義　東洋婦人道德の心得收めて斯書に盡くせり

先づ見本を要求せよ

會員募集

人道講話會規約

一、本會は教育、宗教及び道德に關する講話を直接又は通信に依つて聽かんと欲する者を以て組織す
一、本會本部を東京市小石川區丸山町十二番地東洋高等女學校内に置く
一、本會は文學博士村上專精氏を推して會長とし、其他幹事一名事務員若干名を置く
一、本會は本會の目的を達せんがため毎月一回講話會を開き雜誌『人道講話』を發行す
一、本會は何人をも選ばず入會を許す
一、本會に入會志望の者は住所姓名を記し、壹ケ年以上の會費を添へ本會本部に申込むべし
　但し會費一ケ月金五錢一ケ年金六拾錢とす
一、本會々員には毎月一回雜誌『人道講話』を無代にて配賦す

見本　五厘切手六錢送れ

東京市小石川區丸山町十二番地
人道講話會
振替東京二〇三二四番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

看護婦募集

▲本會は從來小石川小日向臺町に設置して居りましたが、此度業務擴張のため麹町區飯田町五丁目一番地に移轉しました目下看護婦派出の申込多きにつき此際經驗に富む看護婦を廣く募集致します希望者は至急御申込あれ

▲本會は病家の需に應じ速に經驗あり叮嚀なる看護婦を派遣致します

麹町區飯田町五丁目一番地

同志看護婦會

電話番町一四八一

新人第拾卷
新女界第壹卷
合本出來

裝釘堅牢優美永久保存に絶好也

右品切れ中の處再度調製出來

定價
新人 壹圓貳拾五錢
新女界 七拾五錢
（郵税共）

新女界處世號一冊拾錢（五月號）

右殘部少數希望の方は振替貯金にて至急御申越あれ

小石川小日向臺町三ノ九三

新人社事務所

（振替口座一四〇〇五）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

羽仁もと子編輯

第三卷第五號

婦人之友

六月一日發行

高尚なる思想、質素なる生活を紹介す。
最もよき相談相手として多くの家庭に信頼せられつゝあり。

台所研究(一) 佐治氏の臺所……口繪
子煩惱の說……羽仁もと子
父親と子供の親しみ……鳩山春子
滿二年前後に於ける幼兒の教育……羽仁もと子
子供に如何なる規律を與へてゐるか(課題)
育兒の話……醫學博士 加藤照麿
克己帳の由來……それがし女
主婦の經驗
子供の身體にあふ前掛の裁ち方縫ひ方……齋藤春代
贅澤病
家政問答。育兒問答。讀者消息

定價一冊拾貳錢、半年六冊六拾五錢(郵稅共)、一年十二冊壹圓貳拾錢(郵稅共)、

發行所 婦人之友社
東京小石川雜司ケ谷町
振替東京壹壹六〇〇番

と云ふので寢たり轉んだり飛んだりはねたりしたいのをじつと我慢して、愼んで居ます。又飛んだりはねたりされた日にはたまりませぬ。折角のお仕度はめちや／＼です。こんなお仕度なして連れて出ますと實際付添つてる人は、着ものを汚させまいとの心配で疲れ切ります。これ程までにしてよい着物を着せる必要はなからうと思ひます。子供の着物は柄と恰好です。柄のよいメンリス友禪の恰好のよい元祿か筒袖の着ものをすそ短かう着せ、長い靴下をはかせ、うつりのよいしごきをしめ其上に眞つ白な恰好のよい油屋さんを羽織らしてごらんなさい。ずい分可愛い兒に見ゑますよ。若しお宅で洋服がお出來になればそれも結構。極安價な物を以て子供に似合つた服を作るか、又古ものを染め更へるかして、本裁の大人並のものを着こなす迄はこんな事で有合せを利用して何んとか間に合せて置度ものです。

▼亡き母の私に及した感化

私が此事を申ますのは只經濟の上から見てばかりの事ではありませぬ。そして貧乏な我々がするばかりでなく有り餘る方々にむしろお勸め申たいのであります。私共貧乏暮しのものはこんなことより外出來ないから贅澤に陷る事も少うございますが、有り餘るものを與へないといふのは親の情としてよほどの決心と、確乎たる主義を以て、立なければ出來ない事だと思ひます。しかもこの事が、其子の性格を作る上にどの位の感化を及ぼすものであるかといふ事は、私自ら深く實驗して亡き母に感謝して居ります。私の生立つ比は、無論豐かな生活と申ではありませぬが、其時代としては、衣食住あまり不自由も知らずに育つたものです。それに私は獨りの女の兒でありましたから、祖母や其外のものが彼れ是れと、私の着ものを作らへるのを樂みにしたものと見えて、時たま吳服屋などが私に適當な品を勸めては置て參りますすると、これ位は買つておやりなさいと祖母が申ましても母がいつも拒んで容易に買ひませぬ。そして折を見て獨り私をよびまして『お稽古事や學問の爲にお金を出すことは厭はないが、着物には少しでも贅澤をしてはなりませぬ。私の着ものを簞笥から出して來てごらんなさい。一つでもつぎやはぎのないものはない。女は我身をつめる事が肝心だ。自分をつめて人に與へねばなりませぬ』と申きかされました。これは實に生る敎訓でありまして、母は新らしいものでも又は父の遺物でもよい物は皆姑や其他の人の物として、其中の一番惡いものを自身のものと致されました。それで袖にはぎがあつたり、襟につぎが出來たり、何か曰く付きのものでありましたが、幸にぼろいぢりに趣味のあつた人で仕事が上手でしたから捨て

る様なものをもつて有用に働かして行く事に限りない興味を持て居られた様です。母の此教訓が私にしみ〴〵入つたものと見へまして、新しいもので裏表そつくり衿をあけて着る事は勿體ない様で、母にすまない様な氣持が今でも致します。

▼吾身をつめて一家を賑はす

文明につれて人々の美術の念の日に月に進歩して參ります四季折々の流行を追ふ日には到底尋常の事をして生活されるものではありませぬ。女の兒が年比になると、直に衣服に眼をつけます。お友達の何子さんは此間、こんなおみ帯をお取になつた。ア、私もあんなのがほしい。此春流行の半コートはこんな柄だが去年こしらへた、彼の色は、もうなんだかすたれかけた様だと氣をもみ出すと、それからそれと止まる處を知りませんで虚榮のあとを眞つしぐらに追かける様になります。これは只娘時代に止まりませんで、其人生涯此氣は失せなからうと思ひます。一家の經濟は大抵其主婦の手中にあるもので、其切盛の仕方で色々に出來ます。それで其主婦たる人が衣服に贅を盡す人でありますと經費の大部分は其方にとられますから、何れかの部分に大恐慌を來すは當然の結果であります。其第一に及ぶ所は女中哭かせの食費節減で次で來るは慈善費諸會費の減額であります。其他あらゆる範圍に及びますので、其奥様の美しい反比例に内外に陰氣な雲が見えて來ます。斯うなると其家の由々敷大事です。これに反して一家の主婦が僅かの事でも我身をつめて一家を賑はす時には靄々たる和氣は其家に充ちて參ります。縮緬の長襦袢一つで、否、半襟一つで夕餉の御馳走はうづ高く臺にのぼせられます。美くしい半襟を我獨り襟にまとふ事と一家團欒の樂みとはどちらが嬉しうございましやう。わづかに數分間、舌つゝみをならすに止まりませぬ。召使の末々までもこの優しい奥様の志は、泌み渡りまして彼等は平素の勞を忘れてしまひます。かうおはなしを續けて見ますと、子供の衣服が飛んだ所に及んで來るやうですが、其連鎖を辿つて見ますと遠い〳〵幼年時代にかたく結ばつて居る事を見出します。されば衣服の事など些細なことゝして忽にせず能く〳〵注意を致さねばなりませぬ。

似て而して非なるもの

元良よね

世の中には隨分似て而して非なるものがあるものです。はげ(禿)とはけ(刷毛)とは濁點のあるとなしの違ですが、濁點があると毛のないもの、之が無いと毛のあるものです。それ

から氷砂糖と洗濯曹達。珈琲粉と油糠など一見誠に極似てをりますけれども、其質は全で異つてをりますから、各々適當に使ひますなら、いづれも大層有用な品物です、けれども、若し使方を間違ひますなら大變が出來ます。

人間の行爲にも一寸似たやうで、其實大さう違つてゐるものがあります。何時の頃か覺えませんが、昔ある田舍に一人の老人がありまして、どうか殿樣のお通りを一度拜觀たいものだと切りに望んでをりました。けれども何分足腰の起たない老衰の身で、自ら拜觀に行くことも出來ませんでした。處が其老人に一人の孝行息子がありまして、一日殿樣のお通りと聞て、老人を脊負て拜觀につれて行きました。處が事の仔細が殿樣の御聞に達し、如何にも奇特な者だといふので、御褒美を賜りました。すると此を聞きつけた近所の横着息子が御褒美の戴きたさに、平生は邪險に爲ながら、一日殿樣の御通行を狙つて老親を脊負て御通行の道筋へいつて起てゐました。そして孝行息子と同じやうに御褒美を戴きました。處が後に彼者は親孝行どころではない、非常な横着者で先達て老親を脊負てゐたのは、御褒美の戴きたさに親孝行の眞似を爲たのであると殿樣に告げた者がありました。時に殿樣の仰せられますには、眞似でも構はん、善い事の眞似をしたのだから結構だ。と成る程實際に行うた事柄は同一の事ですから善行に違ありますまい。けれども其精神其目的は如何でせう、到底比較にはなりません。これはあまり滑稽じみた話ですけれども、世間には隨分此に類した事があるかも知れません。どうか私共は人眞似でなく、心の底から善く又正しく又淸くなり、隨て自然と善行の出來るやうになりたいものです。

それから又謙遜と卑屈とが間違ふものです。又正直な人が時々馬鹿と呼ばれたり、狡猾極る人を指して實に豪い人だなどといふのを聞く事があります。又最も區別のし苦いのは吝嗇と節儉です。吝嗇は卑むべく厭ふべきことで、節儉は怠るべからざる大切なことです。而も度々間違ふものです。自分の眼に節儉と見ゐる事が、他人の眼には吝嗇といふ違つた形に映ることが度々あります。又時には他人から誤つて認められるばかりでなく、自分にも迷ふことがあります。つまり無益の入費を略くのが節儉で、有益の處へ財其他何でも出すことを嫌ふのが吝嗇でせう。

一體金錢といふものは水道の水か何かのやうに、一寸銓を捻ればいくらでもどう〳〵出て來るわけには參りません。金滿家はいざ知らず、普通の家ならば、主人が腦髓を絞り或は勞力して得るのですから、たとひ少々の金錢でもおろそかに思ては濟みません。なるべく上手になるべく有益に使はなければならないと思ひます。又何時如何な出金があるか分りま

せんから、其時に臨てまごついたり、他人に迷惑を掛けたりしないやうに、平生少しづゝでも積み立て〻置て、不時の備をすることも必要です。と云つて餘り貯蓄の方へばかり心が走ると遂ひ出すべき處へ出すのが可厭になつて、卽ち吝嗇になりますから其所が氣を附所です。又いくら節儉々々と申しましても年中襤褸ばかり下げてゐる譯にも參りません。身體に障るやうな粗食ばかりするのもよくはありません。又御來客を請ずることも出來ぬやうな荒屋に住むことも出來ませんから、先づ己が分を考へてよく分に應じて何事も適度にすると云ふ事が肝要であると思ひます。然し其適度といふのが人によつて見方が違ひます。若し國家に納める税の様に一定の標準があれば世話はありませんけれども、人々の財は人々の任意に使へますから、或は交際を張る人もあれば、自分の身を最も可愛がる人もあり、或は自ら奉ずることは割合に薄くして他人の爲めに盡す人もあります。極端に走りさへしませんなら、人々の適宜にやつて宜しからうと思ひます。先づ自分の良心と懐中と能く相談をし、尚其上日常萬事に注意して啻に金錢ばかりでなく、時間も勞力も無益に費えないやうにすることが大切と思ひます。左樣云ふ風に氣をつけますなら節儉が吝嗇に外れる虞はなからうと思ひます。

應急手當法

小山憲佐

救急療法と一口に云つても、之を専門的に説明すると中々むづかしい事で、それに素人の方々には興味も尠い事だらふと思ひますから、御參考まで一通り御話申しておきます。

(一)負傷して出血した場合に、其の傷口を洗滌する事は誰でも想ひ到る處ですが、然し之は素人衆には考へ物です。洗滌には完全なる消毒といふ事が最も大切な條件になつておりますから、若しや其器物や布片などが、其邊の有り合せ物で、消毒がしてないものなら、洗滌によつて黴菌を傷口から傳播させて取り返へしの附かぬ事にならないとも限りません。それですから血が出たら何んでも洗へさへすればよいと思ふのは大變間違で、其道でない人が不完全な洗滌をするといふ事は先づ〳〵しない方が安全でございます。

(二)血を止めたいと思ふ時にも、俗間ではいろ〳〵のえたいの知れぬ血止め藥などを塗つたり、又甚だしくなると秋糞などをつける人が往々見受けられますが、之等は一寸考へても危險な事が解らふと思ひます。血を止めるには何にもむづかしい事はない。指先を一寸切つた時は指の根を糸で暫時縛つておけばよろしい。然し比較的大きな負傷の場合には、例へ

ば足の何處かを切つた時は腿の附根を強く抑へる、又は固いものを造つて(板でも何んでもよし)、それを附け根にあてゝひもで結び、其ひもを棒にからんで捻ぢれば大概な血は止ります。何故附け根をゆはへるかと云ふと、足部に通ふ動脈を抑へて血を通はさない爲めに外ならないのです。何處を傷けても其局處と動脈との關係を考へて、其要處〳〵の動脈を抑へるのであります。但し此場合に注意す可きは、結へた儘で二時間も三時間も拂はずに置くと、局處が腐敗する恐れがありますから、時々血を通はせる爲めに紐を解く事が必要です頭部の負傷の時は兩耳の前の動脈、頬の時は兩顎の動脈をとめればよろしい。兩足の時は腹の動脈を抑へますが之は素人には六ケしい。

(三)混雜せる群衆の中などでめまひを起して卒倒する事は度々遭遇する事ですが、之は大概腦貧血を起して倒れるのです此場合普通のやり方は、外なら靜かな陰になつた處、内なら空氣の流通のよい室を撰んで、襟卷、帶、紐を取り除き、出來るだけ身體をゆるやかにし、枕を低くして頭を下に足を上にし靜かに寢せておきます。呼吸が遠くなつたり或は已に絕息しておる場合には、其人の名を呼ぶもよし、身體を錐でつゝいてもよし、身體をアルコールで拭ふ、鼻腔内に紙捻を入れてこそぐる、足の平をこそぐる事など、凡て耳、咽喉、鼻及皮膚の刺戟で覺醒せしむるのであります。それでもいけない時は人工呼吸をしてみるがよろしい。

(四)斯くして快復して來た場合に患者は眠る事もありますが眠らせてはいけない。眠らせると以前の狀態にかへる恐れがあります。喉が渇いておるなら湯か水か又は少許の興奮劑を與へて差支ありません。夏季に於ける日射病、又は炎天に重荷を脊負つたりして倒れるのは概ね腦貧血が多いのです。此場合には前述のやうに胸を出して頭を低く足を高くして靜かに寢させるが一番です。

(五)何かの病氣で床に就いておる患者が、熱の爲めに無中に嘔吐く場合には、附き添への人々は頭に手を添へて横を向かせる事が必要です。仰向きのまゝで吐きますと汚物が逆流して肺炎などを起す恐れがあります。

(六)火傷で局部が赤くなつた位の時は水で冷せばよろしい。皮膚がふくれた時は其局部を破がぬ樣にするのが肝心です。其爲めには油を塗るのが一番宜しい。鬢つけ油でも菜種油でも、之れ等がない時は石油でもよろしい。大負傷の場合には此手當をし繃帶をして醫者の來るのを待つのであります。

(七)凍ねても心臓に鼓動がある時に、急に温い室に移すのはよくありません。寒むからふといふので暖くしてやるといふのが人情ですが、之が却つて害になります。寒い處からだん

〳〵に暖かな場處に移すのであります。凍つてをる局部は折れ易いから注意を要します。一時の凍傷の時も直ちに湯や火で暖をとる事はいけません。磨擦して暖を與へるに限ります雪で凍えた時は雪でこする。

（八）水に溺れたものを救ひ上げて水をはがせる場合に、よく逆さに釣つて脊をドシン〳〵打ちながら吐かせますが之もよろしくない。此の時は右の膝に溺者の胸を乘せ、左手で其額を持つて、頬と脊が一直線になるやうにし、そして右手で脊をなでゝ吐かせるのであります。

（九）毒蟲にさゝれた場合に無闇に引搔いてはいけません、口が屆く處なら吸ふのがよろしい、其周圍を指先で極力壓して毒をとる。蝮にかまれた時も直ちに口で吸ふのがよろしい口腔内に傷がなければ危險はありません。糸でくゝるのも有功であります。

（十）間違つて藥を呑んだ場合に逆にして之を吐かせるのはよくない、指が鳥の羽かを咽喉に入れてはかせる。又は胃中の毒を薄める爲めに、湯、鹽水、牛乳、油、又は黑砂糖を飲ませます。燐の中毒（小兒などがマッチをしやぶつて起す事があります）及はんみやうの毒には牛乳、卵など凡てを脂肪分に富んだものを飲せてはいけません。

（本鄕教會靈醫會講演筆記文責記者）

電車處觀

數日前青山までの電車中込みあひまして革につかまつてゐましたら一人の大學生が自ら起て其席を私に讓られました。私はお禮を述べて其所にかけやうとしますとはやちやんと商人體の男がお先まはりをしてゐたのです。又一婦人が小兒に簪を持たせてゐました。はじめは耳かきの處をしやぶつてゐましたが段々玉まではうばり遂に其儘眠てしまひました。おつかさんが今に簪を取るか〳〵と思つてゐましたが中々取りさうにもしません。私は危くて〳〵今いはふか〳〵と口まで出かゝつてゐながらつひいひかねてゐるうちに婦人は下車しました。若いおつかさん方が小兒に簪を持たせるのは時々見る事ですが、たとひ怪我は無いまでも油じみた簪を口に入れるのはどうもよくなからうと思ひます。（某夫人）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

現實生活に於ける信仰

海老名彈正

▼現實の中に信仰を得たる基督

現實生活を廣く深く云ふ時には其內容は極めて多い。決して淺薄に云ふ可きものではない。現實生活には宗教は無い樣に思ふ人もあるが、それは間違である。宗教をも含む所の現實生活でないなら、卑しいものとなる。昔から此二つを分けて、現實生活を淺く云ひ、宗教生活を高く尊いものとして、彼と此と相容れぬと見たものも尠くない。けれども之を全く破つて、現實生活即信仰生活と見た者がある。云ふ迄もなくナザレのイエス其人である。イエスは三十才頃迄田舍に大工を業とし、美しく日々の生活を送られた。其處は誠に貴い。家族には母を初めとして、弟四人、妹二人、或は二人以上ある。其家族の中にあつて働かれたのは決してつまらい事じやない。彼は學者の家に生れ、宗教家の家に生れないで、信心深き勞働者の家に生れた。手足を動かして、清き空氣を呼吸して爽快に過した。彼處に宗教はないであらうか。ヨルダンの洗禮は彼の生涯に一轉化を與へたには違ひない。けれどもそれ以前も又宗教的生活であつた。聖書にある基督の說教は勞働を以て過した三十年の賜物である。反射である。決して圖書館から出たのではない。研究室から出たのではない。悉く日常生活の經驗である。種蒔の譬、葡萄園の話、臺所の話、パン種の話、皆日常生活が深い信仰生活の比喩となつて居る其他燭を執つて花嫁を迎ふる婚姻も、或はカンランの若葉そよぐ夕の宴も其儘說教となつて居る。であるから福音書を讀むとガラリヤ湖畔の生活がパノラマの如く、我が前に現はれる。彼は實に現實の中に生長し、現實の中に信仰を得たのである。

▼衣食住は何の爲

現實生活の手近い所は先づ衣食住である。この必要ある衣食住の事が昔からは餘りに貴ばれ、餘りに卑められた傾がある。一方に金殿紫閣、綺羅錦繡、山海の珍味と奢り亂るれば他方に衣は汚いもの、食はまづいもの、家は荒屋、それで善

いと主張する。日本の武士道で衣は寒からざればよし、食は腹ふくるればよし、家は漏らざればよしと云つたのも其處である。

それならイエスは衣食住を怎う御覧になつたか。主の祈を見ると『我等に日用の糧を今日も與へ給へ』とある。キリストの眼には衣食住の中にてパンが一番重いとせらる。故に着物と家は日用の糧と云ふ言葉の中に含まれて居る。故に我等に日用の糧を今日も與へ給へ』と云ふのは『我等に衣食住を今日も與へ給へ』と云ふのと同じである。若し衣食住が賤しき物、輕蔑す可きものなら、神に祈る譯には行かぬ。イエスは滿腔の同情を注ぎ公然と祈られたのは衣食住を輕んじられない證據である。

それならイエスは衣食住を人生の終極として祈られたか。然うではない。衣食住は他の關係よりして初めて價値がある唯食ふ丈、唯住ふと云ふだけなら、貴いものではない。然るにイエスは之と宗教とを結ばれた。イエスの聲は『汝等神の國とその義とを求めよ』此一言に盡きる。それと衣食住を結ばれた。即ち日用の糧を與へ給へと云ふのは外の事ではない。神の國の生活をなす爲に必要なる衣食住を與へ給へと祈る事である。例へば將軍が軍に臨むに當つて、臣は大命に從つて屍を野に晒します。就てはどうぞ糧食は缺かさず送つて下さい。我々は砲煙彈雨の中に死する事は何とも思ひません。けれども餓死する事は本意でありませぬと云ふ。其處に賤しい所があるか。又青年學生が家を出る時、私は勉強をして父母の志を全ふします。どうかそれに必要なる衣食を送つて下さいと云ふ事は子として嘆願して差支はない。けれども之に反して、何等の目的もなく衣食の爲に衣食するなら其品格はさがる。畏れ多い事ながら、我々の着ける樣なものでも、一天萬乘の御身に觸れさせ給ふなら貴い。之に反して待合の樣な所に行くのに着けたなら、其着物は肩にかくるも穢はしい。故に衣食住は神の國と結んで初めて意義がある。さすれば衣食住は盡く皆靈化さるゝ。

▼脫線するから僞をつく

世間では能く生活難を云ふ者がある。けれども生活難と云ふのが割合に生活難でない。眞正の道を踏んで行く時に衣食住はそう難かしい事ではない。何の爲にパンに窮するか。心掛が間違つて居るからである。或は働かずに金を得やうとし或は不正直でもうけやうとする。然う云ふ者の困るのは當り前である。親が然う云ふ事をすれば子その物は悪いのではないが其傍杖を蒙つて困る事もある。が兎に角世の中には坦々たる道がある。宛ら鐵道の線路の如く、チヤンと具つて居る

それを通らすに脱線すると今度は容易に動かなくなる。一旦僞をつけば一度では收まらない。二度となり、三度となつて次第に惡くなる。一寸ですむ事を面倒にして了ふ。故に基督は「汝等然り〳〵、否々と云へ、これより過ぐるは惡なり」と仰せられた。正直ならこれで行ける。何でも直に濟む。あの法庭などでも皆正直であつたら、判事は三分の一或は半分でよいかも知れぬ。それを僞に僞を重ぬるから事が面倒になつてもつれて來る。何故人は態う面倒な事をして自分で首を縊る樣な事をするか。超脱して見ると人は皆寄つて、たかつて、首を縊つて居る。やつさ、もつさで泣いて居る。或人から見ると、僞をつかねば損をすると思ふかも知れぬ。けれどもそれは目先の考である。一時の糊塗である。最後の勝利はどうしても正義公道である。否、正直なる事、それ自身が我の喜となり幸となる。故にイエスキリストは山上の垂訓に於て懇々と教へていらつしやる。柔和なる者は福なりと云ひ、飢え渴く如く義を慕ふ者は福なり、憐憫ある者は福ありと云ひ、以下順次讀み去り讀み來れば凉味禁じ難きものがある。此世で善い事をすれば、彼の世に善い事があると云ふのじやない。現實卽信仰である。基督の天國は遠くはない。憐む心義を慕ふ心、其儘天國である。如何に世の中が汚れても、永遠限りなき神宿り給ふ。かゝる信仰を以て現實の社會に立たねばならぬ。

▼現實生活に對する興味と其靈化

それから面白いのは基督は間々滑稽を仰せられた事である。バク信仰家、道德家と云へば嚴しい、恐しい樣な所がある。ロでも、孔子でも、近づき難い所がある。けれども人は始終むづかしい顏をして居るのは苦痛である。米國などでは殊更な所もあるが、車掌運轉手など迄がにこやかにして居る。所が東京の車掌運轉手などはむつとして居る。あゝして一日中居つては堪らない。一人アハ、、、と笑へば、車中の人も誘ひ出されて笑ふ樣になる。然うすれば、我も人も息が拔けるイエスには然う云ふ所があつた。大抵の人はなかつたらうと思ふ。所が聖書には諧謔が一寸〳〵出て居る。嚴しい裁判官の比喩は人を笑はしむる話である。又隣人が夜更けて戶をたゝく。既に寢たので起きるのはいやだ。けれどもあゝうるさくて堪らんと云つて起きたといふ比喩の如きも一種の諧謔である。

それから不義なる番頭の譬などを見ても基督が世の不義を引いて面白可笑しう語られた面影を忍ぶ事が出來る。けれども到る所深い道理がこもつて居る。不正なる判事を以て心願の成就を示し、隣人の信賴を以て、人情の機微をほのめかし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しかして況んや天の父をやと仰せらる。不義なる番頭を引いては智慧の用ねばならぬ事を敎へ給ふ。笑ひの中に信仰の閃を見る。如斯宗敎家は何處にある。禪には多少無いではない。けれども不眞面を免れぬ。基督のはパツ〳〵と發して來る。雨雪風雷自然に發すとでもいふのであらう。其處に信仰を宿す。現實生活を盡く生かして來る。

イエスは家庭に於て、一夫一婦を敎へられた。けれどもそれをやかましく規則立てゝ云ふのではなく、寧ろ樂しい溫かな所を御覽なされたのである。現實生活にあるものに始終觸れて行く。斷じてかたよらない。けれども其中に深い興味を見出して來る。人一度靈の力に接すれば萬物皆生きる。現實生活に淸き思を起し、現實生活を踊らしむる。古傳に、神が土人形を作つて之に息を吹き込んだと云ふ話がある。現實生活は土人形に過ぎない。けれども之に基督の靈氣を吹き込む時には現實生活は踊り上つて眞に靈の生活と變つて來る。

一舟は皆草花や五月雨　　一茶

みむね

信子

▲幼い子供にどうしたら神樣が分る樣になるか、私共日曜學校敎師はいつも苦心致して居ります。理窟を申しましても、分りませんから、唯然う云ふ心持で、やさしく子供を扱ふ外ないと存じます、然うしますと、子供は次第に感化を受けて知らず〳〵神樣に近つく事と存じます。さる奥樣が仰せられましたに、或時の事、小供が「御母さん、神樣をつかまへました」と申しますから、どうしたのかのと見ると、砂糖瓶の中に手を入れまして、其塊を握つて居るのでございました。これは小供が「神樣は何處にでもゐらつしやいます」と云ふ御話を承つて居つたからでございませうと話された事がありました。それから又こんな話も御座います。「父さん〳〵今日僕はね、神樣の小さい虫を見ましたよ」と云ひますが一向見當がつきませんでした。がその後それは神樣は目に見えぬ方であるとの敎を聞いて、直に小さいと解釋したのでございましやうとの事。あどけない、可愛いあの幼子が當意即妙にやりましたのには却つて神樣がゐらつしやるのかも知りません。どうぞ無理な事をせずに、永い間に分る樣心掛けて置きたいと存じます。

▲繪筆を握つて、人や、自然を御寫しなさいます方には珍しい事でもございますまいが、私つく〳〵感じて居りますのは、畫家の御覽になる、美と云ふ考でございます。私共でしたら、奇麗な着物でも召して、御化粧でも遊ばして入らつしやつたら、美しい方と存じますが、畫を御書き遊ばす方は殿方でも、御婦人でも、そうは思ひなさらぬ樣でございます。「ぴか〳〵した奴よりは、ぼろがさがつて居る所がいゝなあ」などと仰しやましてれ、垢じみた、御畫に恍惚れる方も御座いますよ。極端な樣ですか、何となく味があるじやありませんか。神樣はどんな方を美しいと御覽なさる事でせうか。

ミス、テッブスを訪ふ

欽泉生

四月十日の『萬朝』を讀まれた方は、八十七才に成る老孃テッブスと云ふが獨旅して横濱に來て居る事の載つて居たのを御覽になつたと思ひます。自分は其訪問記を讀んだ譯ではなかつたが、今は世に亡い其父上の形見の短詩「朝の讚美」の邦語譯を妙な懸合から賴まれたので、之と云ふも他生の緣、殊には兩親に逝かれた傷心の痛ましさに、殘る日尠き其孤影を、東方諸國の觀光に慰むるのだとの志に惹附けられて、つひ訪問する氣にもなつたのである。

五月十九日、ハレー慧星の太陽面通過と云ふので、尠からず世界の恐怖心と好奇心とを弄ばれた其日の夕方、先づ以て無事息災であつた自分は豫ての所望通りグランド、ホテルの四番室に此珍客ミステッブスを訪ふ事が出來た。途すがら、谷戸の橋畔から海面を眺めやると、北風烈しく吹荒んで横須賀通ひの小蒸汽も波に揉まれて居る。今が今まで天文學者を喜ばせた皐月晴の空も、如何やら怪雲に瑣されて來るらしい。且は錨を下した計りの八雲艦の黒ずんだ船體までが何だか斯う氣を沈ませる樣で、ハレーを見送り英國の大葬を迎へる晩方には如何にも相應しい光景、二三日前バキンガムハム宮殿で歌はれた故エドワード陛下の愛吟(さんびか第九の原歌)抔も漫ろに思ひ合さるゝのである。

豫定が少々外れ、急き足にホテルへ行着いた時は早や五時を三十分も過ぎて居たらう。取次いで貰ふのも待遠しく、案内せられて四番室の戸をノックしたら、Come in と御婆さんらしい聲が聞えた。入つて見ると、髪の白い、眼の大きい、優しい樣で何處となく締りのある、腰の少し屈み加減な七十恰好の御婆さんが唯獨り何だか淋しさうにしよんぼりと腰掛けて居た、之が當のミス、テッブスなのである。聞き知て居つた事には、何でも餘り身寄も無いらしいので之を老後の樂みと諸方を漫遊して居るさうな。きつと物持に相異ないと推しては來たものゝ、然し餘り室内が質素なのに驚かされた。しぶい、沈んだ、どつしりした英國の婦人氣質も其邊に讀まれて嬉しい。

如何にも懷しさうに飜譯の禮を述べて置いてからミス、テッブスの口は始終動いて居る。「斯う獨旅をして居ても皆樣が大層親切にして下さる。王樣が御崩れになつたにつけても御國の方々は誠に同情

を表して下さる。あれ彼處に軍艦まで來て居ます。」と見ゑは爲ぬが、窓外の八雲艦に視線を向けた。昨日某夫人の案内できやまくうらを見物したさうで、大佛は何時頃出來たのかと聞かれる。折を見て「何日日本へ御出でだつた」と尋ねたら四月六日横濱に來て來週迄居る、其から東京で幼馴染の奥様になつてる方とかに會つて日光を見に行くと答へ、重さうなトランク二つを傍に置きながら何の心配も屈托もないらしい。其處へ行くと、一寸隣村へ行くにも泣きの涙で別れる日本人は意氣地ない次第である。

軈て獨り頷いてトランクを開け、一枚の新聞を持つて來て譯して呉れとの所望、何かと見れば十日の「萬朝」、御當人の事が載つて居る。最早幾度も讀んで貰つたのだらうが、請はるゝ儘に大體を話したら、能く判つたとか云つて御世辭を振撒かれる（一寸斷つて置くが其は英國風の御世辭であつた）。新聞の記事と其日の直話とを括めて云ふと、元は何でも倫敦附近に住んで居て、後ブリストルに移つたさうな。父上は詩才のある法律家で卅四年前に高齢を以て世を去り、母御も七年前に九十五で隔世し、六人同胞の中其年上なのは皆夭折して殘るは四つ下の妹計りだと云ふ。父方も母方も長生の系統だと見ゑる。叔父に當らるゝのが十數年間孟買の監督であり、寫眞紹介に因ると近親の中に國教會の教職に在つた人もある様子で、此御婆さんも保守的な質實なクリスチアン、ホームに育つた氣品を談笑の間に薰らせて居るのは床しい。亡き母を戀ふる至情に東西の離は無い。殊には表現的なのは洋人の當軌。物語る中に當時が偲ばるるのであらう、涙ぐむ計りか聲まで淋れて來て、幾度も釣込まれさうになつた。「御母さんは房々した宜い髮を持つて居ましたけ、而して極く沈靜な顔面な……。繪を描くのが何より好きで、皆様から褒められました。御父さんが逝つてから暫らく其さへ廢して居ましたが皆様が御勸めになるので復始めました。然うでしたね……。何でもクイン、ヴイトリヤが御崩れ遊ばす二三年前、私共の居たブリストルの町を御通りになつた時御母さんが拜顔の榮を得た事を歡んで得意な花の繪に鄭寧な手紙を添えて獻上せられました。程經て陛下の秘書官からの禮狀と自署のある大判の御眞影とを戴きました。陛下は實に立派な方でしたよ。御母さんも御葬式には參りました。此世で二度と御目通りが適ひませんでしたが、きつと天國では御逍ひ申す事が出來たでせう」と涙ぐむ、老嬢にとつては之も思出の種であらう。

自分が或る日曜學校に關係して居ると云つたのが機となつて、ミス、テツブスは復もや思出草を摘まして呉れた。「然うですか。私か未だ少さい時教會の御留守居をしたものです、御母さんが御歸りになると直ぐベットの傍へ來て何日でも『御前は未だ少さいが御母さんは大層年を取りました。何日召されるか判りませんが、御前はどうぞ行末永く神様に仕へて下さい』つておつしやいました、今でも忘れません……。御母さんは到頭七年前の……（力を籠めて）クリスマスの夜明け方に眠りました。床に就いてからも何か人様の爲になる事が致したいと申して、御友達と一緒にペン拭ひや何かの縁とりに精出して居りました。毎年クリスマス頃になると自分で美麗な花カードを描いて方々の御友達に贈りました」と如何に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も感慨に堪へぬ面地であつた。何か母御の紀念の繪でもとねだつて三四枚見せて貰つた。みんな小さな草花の繪で、何れも九十の坂を起してからの手すさびである。中に、果の二つ附いた玉蕊花のがあつた。老嬢は「之です、ヴイクトリヤ陛下に獻じたのは。ずつと大判で果も五つ附いて居ました」と言葉を添へた、人並ならぬ老夫人の厚意と思へば女皇陛下もどんなに喜ばれた事であらう。

ミス、テップスが「斯んな親切な御手紙」と云つて見せられたは、某大學の一學生からの消息。今朝新聞で貴孃の事を知つた、八十七にも成つて日本語研究に志すとは感心な事、教授なり通辯なり爲て見たい、とある。老嬢には今更日本語研究の意も無いと云ふから、日支兩國語研究の積りだと云ふ「萬朝」の記事も如何やらおまけらしい。ミス、テップスが八十七では何だか勘定が合はない、糺して見たら「まさか然んなに年寄ではありません」と笑はれた、失禮だと思つたから後は念を推さずに仕舞つた。

室内こそ燈火も無けれ、外は最早電燈も點いたらしい。長居しまいと思へど、中々話が盡きない。訪問客があるのだらう、時々戸の外で電鈴が喧しく鳴る度に何だか歸りを急かるゝ樣な氣がした。老嬢は復もや Things being seen in Egypt. とか題した一傳道者の埃及見聞記を出して來て、日本にも澤山英書が來て居ますねと云ひ乍ら、眼鏡もかけずに其中の繪を見せて呉れた。ナイル川の夕榮に快走船の浮かんだ一枚があつた、ミス、テップスは窓外を指して自分が此樣な船に乘つた時彼の國旗を樹てたと云ふ、見れば成程十字を重ねた旗一流窓の外に靡いて居る。老嬢は然も物思ひに堪へぬ風で「印度では彼の旗を天幕の外へ揭げました、御國へ來てから如何も使ひ道がないと思つて居ましたら、思ひ設けぬ王樣の崩御……」と口を洩れたは、轉變測り難き人事のさゝやきである。印度人からの連想で、話は亡き父上の短詩「朝の讃美」に移つた。Come to me, Lord, when first I wake. の起句を有する此詩は「ヒムナルコムパニオン」の中にモザルトの譜を附けて編入せられて居て(此譜は老嬢の厚意で自分の手許へ贈つて來る筈だから何れ其中に此譜で歌はるゝ樣に譯して見やう)既に二十一ケ國の國語に譯されたが日本譯は如何も見當らぬ。先頃もミス、デップスの令妹からの消息で、或る便り少ない印度人が英語で此詩を歌ひながら泰らかに眠つたと云ふ逸話を傳へられたとて、亡父の形見が何處で人助けをして居るか判らぬと、老嬢は然も滿足さうに話して居た。

「慧星が此窓から見ゑたさうですが、最早見えませぬ」と云ふので「明日からは晩方見えます」と云ひ添へたら「明日……明日の英國は如何でせう、嘸悲愴な光景でせう。本當にエドワード陛下は偉い Peacemaker でした。然し私は信じます。神樣は他の Peacemaker を起たしめて世界にある神樣の子供達を和がしめなさいます」と結ばれた。言ひ來つて、ミス、テップスも嘸や母國懷しさに堪へぬ事であらう。小暗き旅窓の下、夢魂は今宵其床を離れて那邊に彷ふ事やら……。

餘り遲くなるので、厚意を謝して別れを告げた。あゝ彼の握られた溫かい手、此世に再び握り返す折とてはあるまい。之から濠洲から布哇米大陸と復もや旅出するのだと云ふから、今は、道中恙なく神の御手に護らるゝ樣祈る計りである。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ホテルを出て左手遙かに見渡すと、英艦ベッドフォード號には灯の數も多い、明日の祈禱式の準備に忙しい事であらう石造りの入口近く、ミス、テップスと一緒に世界漫遊をして居る英國旗が物思はしげに少しは和ぎた夕風にゆらいで見ねる。

摘草集

▼基督教と我女子教育

西山挺治

菊池男の演説ありし翌二月二日、余はグールド孃に招かれ午後の茶會に參ず、談は忽ちにして昨夜ありし菊池博士の演說に移る、グールド女史襟を正して日本に於ける基督敎の影響は菊池博士の否定的解答の如く信ぜらるゝやと、余の意見を求められたり。則ち余は次の如く余の感ぜる實際を敎育上より述べたり、日本に於ける基督敎の影響に對しては余は寧ろ肯定的に答へんとす、何となれば此れを敎育上―殊に我女子敎育上より見るに日本に於ける基督敎の貢獻せしところは甚だ大なりしを認めざるべからず明治の初年頃に於ては女子敎育に就て省みるものなく、女學校は殆んどなかりき、即ち、諺の「女子賢うして牛賣りそこなふ」を信ぜし日本人は女子の高等敎育を認めざりき、從つて女子の社會的地位をも高くは認めざりき、さるを基督敎來り、此の日本女子敎育の缺陷を洞察し、數校の女學校を創立せり、而も此の基督敎の與へし女子敎育は著しき好果を示し、又、我社會は此の好果を認識するに到り、此に我女子敎育の萠芽を見たり。明治二十三年には女學校數は七校となりぬ、越えて明治三十六年には百五十五校の多きに達し、女學校の學生が三萬五千五百四十六人に達し、女學校の女敎員が千〇九十四人に達し、今や、小學校の女敎師は全國到るところの小學校に奉職し、女子にして新聞、雜誌の記者たるものあり、女醫者あり、女流美術家、女流小說家、著述家あり、女流音樂家あり、實業家あるに到れり、斯くの如き驚くべき變化發達は二十年の昔に於ては日本國民の夢想だもせざりしところなりしなり。然るに基督敎は我女子敎育發達の根本的動機を與へ、且、從つて日本婦人の社會的地位をも高めたり、此の二點は確かに基督敎が日本敎育上に與へし一大貢獻として新日本の文明史に大書せらるべきものなりと信ず。（敎育學術界）

▼子供に對しては一家同一主義をとれ

黑澤逸郎

家庭に於ける子女の敎育は、母親の躾方によつて非常な效果を奏するものであるといふことは今更いふまでも無いが、總て家庭の敎育を其實際に實現しやうといふことは中々六ヶ敷い事であるから。家內中一致協同してなさなければ十分の效果を奏することが出來ない。意見の衝突などがあつてはならぬ。同一方針で開拓して行く事が必要である。然るに世の中の家庭の多くは矛盾して居る事をやつて居る。例へば父親が叱つた後で母親が陰にまはつて之れをいたはるといふ風がよくある。また「父さんには內證だけれども、父さんが居ないから」とかいつて父親の禁じて居ることを窃かに陰で母が許すやうなことがある。之れは目前の愛に溺れて、永遠の考をしないからである。斯樣な躾方をして、不知不識の間に兒童に惡癖をつけしめて顧みない母親がよくある迂濶もまた甚だしいと云はればならぬ。其他父母が正當な理由があつて其の兒を叱つたものを、祖父母が之を庇護して「家の忰は邪慳で困る。」といつて却つて父母を叱りたりなどして、年寄のくせに祖母風を吹かせて、嫁にまで衝きあたつて、母と祖母の口論を始めたりする。之れは祖母ばかりでは無い。夫婦の間にもまたよくあり勝なことで、子女敎育には大によろしくない。なぜかといへば、家のものがいつも斯ういふ風であると、子供はどうしてよいか路頭に迷つて、是非正邪の判斷を下すことが出來ない爲めに自身に利益がある方をありがたいとして、叱られても庇つて臭れる人があるからいゝといふ風に橫着になるからである。であるから、一人が惡いといつて叱つた事は他の人も同樣に惡いといひ、一人が善いといつて譽めた事は誰れも皆善いといふ樣にして、多少の考の違つて居る事があつても、お互に少しつゝ意見をまげて互に讓り合ひ、相談し合つて子女を敎育するといふ精神で、我といふ觀念を標準にしない樣に努むることが肝要である。（警世）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▼臺所で改良したいと思ふ點

宮川壽美子

一體西洋の家庭では、何をするにも石鹼を多く使ひますので、どんな脂の強いお料理をしたあとでもにさ〳〵する樣な事もなく、誠に氣持が宜う御座いますが、日本の家庭では、石鹼を使ふ事に餘り馴れませんので、匂ひが移るとか何とか云つて容易に用ひやうと致しません。これは大きな間違ひであとで水で濯ぎさへすれば、決して匂ひの殘るやうな事もなく、手輕に汚れを落すことが出來るのであります

又日本の臺所では、大概坐つてお料理する樣になつて居りますから、狹い家などでは一人坐られると他の者は寄り付く事も出來ず、又一寸退かうと思つても立つのが臆劫と云ふ次第で誠に不便至極な事が多う御座います。今後の家庭にはどうかして立つてお料理をする習慣を養ひたいもので御座います。それして割烹臺といふ樣な者を用ふる樣になりましたら食物を足元で取り扱ふと云ふ樣な不潔なこともなくなるし、又何をするにも身輕に體を動かせるだらうと思ひます。（婦人畫報）

▼嬰兒と副食物

醫學博士　加藤照麿

▲人間の身體に必要なものは脂肪、蛋白、含水炭素の三原素ですが、乳汁のうちには脂肪分と蛋白分は澤山ありますが、含水炭素はごく少ししか含んでをりません。また乳汁のうちには鐵分がありませんから、乳ばかり飮んでゐては血液ができません。脂肪はつきますから、身體は脂肪肥りに肥つて體量もふえますが顏の色が蒼白く、いかにも血色の惡い子供は大抵牛乳ばかりで育てられた子供です。含水炭素は澱粉野菜などの中にあるのですから、子供が六ヶ月にもなつから、乳のかたはら副食物をはじめなければなりません。

▲子供は滿六ヶ月になれば、乳汁の外の副食物を消化することができます。初めは重湯からだんだん粥をはじめます。鹽も人體には必要なものですから粥の中には食鹽を入れるがよろしいけれども、子供によつては鹽を入れるとイヤがつて食べないものがありますから、さういふものには止むをえません。砂糖を少し入れて食べさせます。

▲粥には初めは食鹽を入れますが、少し經つたらば普通の鰹節の煮汁に食鹽で味をつけて、おじやにして食べさせます。

▲八九ヶ月の子供ならば、小魚をはじめても差支ありません。それは鰈、甘鯛、あひなめなど、薄醬油で煮て食べさせます。牛乳を飮ませる時に粥よりもよいのは食パンです。食パンはごく薄く切つて、兩面とも少し色のつくまで燒きます。それにジヤムをつけて細かく切つて、牛乳に添へて食べさせます。ジヤムなどは果物で作るものですから、非常に結構な營養品です。一日に二度粥を食べさせるものなら、あとの一度はパンにジヤムをつけてやるやうにしたいものです。

鷄卵は子供によると、個の工合が惡く、消化不良症を起すことがありますから、初め試めしてみて、もし工合が惡いやうならば成長するまで食べさてなくとも差支ありません。

▲果物も必要です。できるだけ早く食べさせたい考ですが、まづ初めは林檎などを煮てそれをよく潰して食べさせるやうにします。果物は血を作るに必要なものです。

▲肉食をはじめる前には、まづ鷄か犢のスウプで煮たおじやを食べさせます。尤も肉と共に玉葱、胡蘿蔔などを煮ることが必要です。

▲菓子は滿六ヶ月から始めます。初めは口の中でとけてしまふやうな輕燒などを食べさせ、次にはカステラ、一年以上なつたらば舶入の菓子なども差支ありません。羊羹なども結構です。

▲子供は乳を飮むから、湯水は飮ませなくともよいと思ふ人が多くありますが、それは間違です。子供にも湯水を飮ませなければなりません。

殊に夏の暑い時は、滿三ヶ月以上の子供には、適宜に、一旦煮沸して冷ました水を飮ませなければなりません。子供は喉が喝いても、これを訴へることを知りませんから、母親がよく察してやらなければなりません。麥湯や紅茶の薄いのを冷まして飮ませるのも結構です。

▲副食物の分量は、一番はじめはおもゆを盃に一杯づつ、一日に三度食べさせ次第に一合までに增します。一週間ばかりしたら、粥をはじめます。粥は初め盃一杯から次第に三杯までにします。（婦人世界）

▼油蟲の驅除法

蔬菜、花物、果樹等を作る場合に常に困難するは油

蟲の害であります。之れを除くには種々の方法がありますが、最も簡單にして効能のあるのは、洗濯石鹼と除蟲菊粉との合劑で、其分量は次の二通りあります。

▲第一法

△洗濯石鹼　二匁
△除蟲菊粉　五分
△水　一升

▲第二法

△同　一匁
△同　一匁
△同　一升

之れを製するには、先づ石鹼を薄く小刀にて削り、鍋に入れ水を加へ煮て溶かしたる後、除蟲菊粉を加へ、冷却して用ゐるのです。併し場合により除蟲菊粉を求むること困難なれば、單に石鹼三匁を水一升に溶かしたる液を用ゐても効能があります。此液を植物に撒布するには通常噴霧器を用ゐるのですが、若し無ければ細孔の如露にても差支ありません。盆栽又は小さな植物であれば、刷毛又は筆先に浸して丁寧に驅除する方が宜しい。（婦人之友）

▼婦人の職業としての養鴨

婦人の養鴨と云ふことが、大分耳に入りますか、是は誠に結構なことで、鴨は愛らしい動物ですから家庭には至極適當した禽で、鷄よりは趣味や實益も多い事と思ひます。鴨は平和な柔順な禽で、庭園へ放して置ても、植物を荒らす樣なことはなく、鷄の樣に廊下へ飛上つたり、臺所へ上り込んだりいたしません、全く家禽としては女性的のものです、其平和と穩順は「まがも」の特質で、又同族相慕ひ群居して互に睦み合ひ、一羽でも仲間を離れて勝手に歩く樣な事はせず、休むにも寢るにも必ず密集して居りますから、管理や飼育が容易であります、又「まがも」は病氣に罹る事も少なく、其雛は至つて强健で發育が鷄よりも早く、生後七十日位で親鳥同樣の體格になり、卵も鷄よりは多く產み、夏の換羽時期を除くの外は年中產卵いたします、其產卵の量も多く餌は粗食に耐へ、少々腐敗したものでも差閊は御座いません、殊に鴨は雜食鳥ですから、川、沼、水田、廣場などに放飼すれば、殆ど餌は要らぬ位で、唯夕刻に逐ひ返へす習慣をつけておけば、如何に隔つた所からでも自分で歸へつて參ります、又「まがも」は場所を選ばず水場でも高燥な地でも、少しも差閊は御ざいません、殊に群居を好みますから、人家稠密の市街でも、裏庭か、臺所の外に一坪の餘地があれば、十羽位は飼へます、又馴れ家を離れないので、別に柵や垣の必用もなく、庭へ放して置けば宜しいので御座います。寢る小屋なども、五羽や十羽なら軒下の片隅を圍つて藁を布いて寢かせば宜しいので御座います、尙ほ申して置きたいのは、「まかも」の種類の事で、進化の足らぬものは姿は美しくても、產卵力か鈍く、又鶩との混血種は、姿が醜く、產卵力も乏しいとの事ですから充分進化した種類を求める事が肝要です、婦人の手で有益な趣味と實益を擧げ、家庭に動物を愛する思想を與へる事は、決して無用な事ではあるまいと思ひます。（時事）

◉敎訓いろは唱歌

小波山人補
有馬憐花著
（崇文舘發行　定價六錢）

憐花氏は現に師範學校に敎鞭を執つて居らるゝ若い先生で宗敎や道德に興味を持つて居らるゝ人。特に御伽噺が好きで時々本誌にも寄稿せらるゝので讀者も御なじみであらうと思ふ。此唱歌はいろは四十八文字を一つ〳〵敎訓にあてはめて作つた小供の道歌と云ふ可きもの。全體平假名で誰にでも讀める。

◉日曜學校お伽草紙

原正男譯編　內外出版協會
（定價金廿五錢）

編者の序言に云ふ、本書の中に集めました譚は、皆坊ちやん孃さん方が讀んで面白くもあるし、又益にもなるものばかりです、と。其面白くためになるお伽譚が廿四程集めてあつて、譚の終末は悉く聖書の文句を引いて基督の言行と結ばれてある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

投書欄

本號から投書欄を開設致しました、續々御投書を願ひます。投書規則は欄末に載せてありますから御覽下さいませ。

青葉若葉

横濱　里の子

月淡い宵、自分は露多い後園を訪れた。夏殿に女官らが衣たりまつる梭の音にさめて萠えたかの樣な碧い御空のその色が、夕月のひかりに融けて木々の梢にしみたと計り思はれる青葉若葉の、其處には一の塵もなく、太古のまゝの靜けさである。裳長う曳いた天女が、双の手に綠の冠さゝげたその姿にあこがれたと云ふのではないけれど、雨に、風に、心をどらせて三日の花にたのしむよりは、一雨毎に、一風毎に、色ます青葉の方が只何となく懷かしい。

◌　◌　◌　◌　◌　◌　◌　◌

海をへだてゝ、遙か名なし小草の花さへないいづれかの國で、きよい冷たい骸をこの青葉に包んで埋つたなら、—あゝ若しその樣な事があつたなら、小さい奥津城を覆ふ小枝の白露が地にしみて包んだ青葉の色もさはに、包まれたむくろも代々に朽ちずに居て欲しい。

はてしない思が、、、、そこはかとなく胸の中に涌く。ふと仰ぐ青葉の梢からはら／＼とたつる青玉、あはれいづこの土にしみて行くのであらう。

妹を憶ふ

福井　野菊

噫妹！　可憐なる少女わが妹は、つひに神に召されてゆきぬ。我れ世に肉身の妹としては、唯彼の女一人を與へられたるのみなりき。されど、神は今彼の女を召し給ひぬ。世に生れいでゝ地上に在ること僅に十三年。今年一月六日、つひにとはの眠りにつきぬ。まことに彼の女は清く美はしき心の少女なりき。未だ世の汚れに染まず、塵にをかされず、恰も露をびて咲ける白百合の如き心なりき。その房々しき綠の黑髮、愛の心をたゝへて星の如く優しく輝きし雙の眼、何れなつかしき思ひ出の種ならぬはなし。今や世を去りてゆきぬ。されどわが妹は死したるにあらず、まことや彼の女が故鄕、天父のもとに歸りゆきしなり。

憶へば彼の女は人なつかしき少女なりき。人にも睦び親み、おのれもまた人に愛せられぬ。常に人を悅ばする事を好み、殊に老人をいたはり、幼者をいつくしむ事の厚かりしは少女の如くにもあらざりき。物をにくむ心露も見えざりし中にも、殊に草木の花を愛でよろこびぬ。道野べに咲く草花の一本だにあだにはゝすぐさず、いたはりたゝふるが常なりき。父母に請ひ草花を培ひて樂みぬ。夏のあした、瑠璃の盃うちつられしと見まがふ垣根の朝顏、今日は幾つと數よみ色をめで、或は庭のコスモス我が丈よりのびぬと、背比べしてうち喜ぶなど、罪なく愛らしきその樣は今もなほ見ゆる樣にぞおもほゆる。わが歸省して故山にある時は、常に花を摘み來てわが机上をにぎはしぬ。或日の事なりき、わが敎へ子の一人、某の花子といふ者文寄せしを見出でし妹は、いたくその名をめでゝ未だ見知らぬ人ながら、わが友の如く懷しがりて、つひには此花を贈り參らせてよと摘み來し撫子の色よきを封じこましめぬ。或は又秋の日の事なりき、黃菊白ぎく咲き匂ふ園におり立ちて、色香めでつゝ姉上に見せ參らせたしと毎日の如くいへりと當時弟はいひ越しぬ。あゝ可憐なる少女わが妹は、花の如く優しくはた清き心の少女なりき。されどもと松の如く強き體質にはあらずして、たけける露さへ重く吹き來る風にも堪へがたげにて、その名もゆかしき谷間の姬百合そのまゝの姿なりき。念へば神は彼の女が心の清きをめでゝ汚れに染まぬ間にとて召し給ひしか。はたまた變轉極りなく艱難苦勞絕えぬ世の波風に堪へがたきを、憐みてよび給ひしか。神の御惠みや深く厚く且廣し、我等のはかりしる處にあらざるなり。

妹は未だ深く天父を知らざりき。されど好みてさんびかを歌ひぬ。歌ふ每に說明をもとめ、神の惠みの深きを感謝し悅ぶこと屢なりき、病床につきし以來一言の不平をもらさず、苦しき時も父母の膝によりて、凡てをゆだねたる如く苦悶せずしてよく堪へたりと母は語りぬ。いささかの苦痛もなく眠るが如く逝き、一點の憂をもとゞめず、さながら生けるまゝの姿なりきと兄はいひ越しぬ。かくて我が妹はつひに世を辭して、また地上に來る事なし。よく歌ひし銀鈴の如き聲も再びきく事能はず、その影亦見ることを得ず。これまことに驚くべき事實なり。あゝされど我が妹は死したるにあらず、永しへの命に入り

しなり。夢か幻か、夜毎清き姿は見ゆれども、たゞ笑みて立ちてまた言はず、柔く暖き輝の中に包まれてぞのぼりゆく。あはれわが妹！　平和なる御國、天父にこそは歸りしか。

精神の修養

北海道　紫　女

孤村に育ち、至つて質朴をのみ愛してまゐりました身の飽光煌々としてさながら、白晝をもあざむき、軒家櫛比の都會に二星霜を送りました時は、古杉の茂れる孤村　閑靜な田舍が戀はしうございました。がもう〳〵田舍もなか〳〵に世の風潮に浴して來ました、水清く、氣爽やかなりし田舍も、都の風に吹かれて參ゐりました。それにつけても、色々の思ひが湧きます中に左の一事につきて書いて見度いと思ひます。

女子教育が盛になるにつれ、東西南北より一も二もなく、東京々々と一度都へ足を踏入ずば、教育は完成されぬやうに考へて居らるゝ方もあるやうです。そして多くの女子たちは、地方の相當の學校を卒業後は、いつくしみ深き父母に、親しき友に、「錦を飾つてかへりませ」と送られ、出でたつたのれも、必ず目的の業を果して、立派に心の玉を磨きかへらうとの決心にて郷關を出でられるのでございませう。

併し二年三年の後は如何でせう。最も肝要なる品性の修養、精神の練磨てふ事を打忘れて、外見にのみ心を奪はるゝ方も尠からぬやに存じます。婦人はもとより外形の美を發揮せしむる事も大切ですが、第一にすべき事を後にして、世の浮華驕奢に心を奪はれては、何の役にもたゝぬと思ひます。虛榮の夢にのみ憬がれては身を誤る基となる事もある事と思ひます。譬ひ其父母は如何に富豪なるにもせよ、一滴の汗も一掬の涙も加はりしものならば、リボンを買ふ僅少のお錢でも皆父母の艱難辛苦の結果であります。父母は立派に子女の成功して歸郷する曉を待ちつゝあるに、其期待に添はず却つてあらぬ方に身を陷るゝ如き事のありましては誠に心外な事でありませう。それ故眞の價値ある婦人たるには充分われらの精神的修養を積まねばならぬ事と思ひます、外面の飾のみならず、心の中に隱れたる德を養いたいと存じます。

日曜學校の先生

東京　白百合

▲此の間ある外國雜誌で、次の樣な話を讀みました二人の紳士が去る處への旅行中滊船の上に落ち合つて、種々な談話を交へたが、其中特に日曜學校の價値如何といふ話は、非常に面白い敎訓を含んでおつた。年寄つた方の紳士は「眞實な處を云ひますと、一體私は凡て彼の樣な事業は餘り効果のあるものだとは思ひませぬ。私も長年日曜學校の敎師として働いておつた事がありましたが、要するに何等の効果も得なかつた樣です」との言葉に、若い方の人は、「イヤ私は同く日曜學校の價値を信ずる、私が幼時日曜學校で受けた敎育は、今以て私を善良敬虔な方向に導いております」と答へながら、幼時の日曜學校の名は然々であつたと告げた。と老紳士は驚いて其學校は私が敎へた處だ、貴君は私の時代に御在學でしたか、私の名は………」と云ひかけるのを若い方が引き取つて、「左樣〳〵、私は貴君の生徒でした貴君は何々さんでゐらつしやるでせう」と間違はずに其名を云ふと、長い過去の記臆が二人の胸に湧いて來て、日曜學校は無益だと思つた先生と、生涯の善感化を受けた生徒と、兩々感慨に滿ちて暫らくは甲板に立ち盡した。

▲此話にある通り幼兒に及ぼす影響は、實に案外深甚なものであると思ひますにつけても、私は日曜學校の先生の責任が誠に重く且つ大なるを見るのであります。日曜每のお話に何百邊基督樣を繰り返へした處で、先生の人格、信仰といふものが低かつたら役に立ない處か、却つて其生徒を誤る原因となると思ひます。大概日曜學校は年若い先生方に任せられておりますが、私は此點から見て如何かと思ひます何にも老人に限ると申すのではありませんけれど、も少し嚴密の撰擇が必要だと思ひます。

投書規則

▲美文、日記、諸種の經驗及感想、和歌俳句笑話等▲二十三字詰三十行以内の事但し和歌及俳句は各五首以内▲假名は凡て平假名の事▲字體は正しく明亮に書く事▲原稿には住所氏名を明記する事但し誌上の匿名は隨意▲取捨の權は記者にある事▲原稿は返送の請求に應ぜず▲每月十五日締切▲新人社事務處宛送附の事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

隨感

母親の權威

安井哲

私は先日或場處に招かれましたので、一寸身體を淸め樣と思つて、大急ぎで入浴にまゐりました。處が或上品な御老人と、奧樣と、五六歳位の誠に愛らしい男兒とが入浴して居られましたが其御子さんの我儘と申したなら、殆ど御話になりませんでした。御母樣や御祖母樣の仰しやる事には、一つとして從はず、自分の氣に入らぬ時には、直に泣き叫ぶと云ふ有樣で、私は側に見て居て實に御氣の毒でたまりませんでした。處がいくら御母樣が制されても、惡戯を止められぬので終に『御覽なさい、あの番頭さんがお灸をすゑますよ』といつて嚇されたので、やつと大人しくなりました。私は之れを聞いて非常に不快不安に充たされました若しもお灸が此子供に一番恐ろしい物であるとすれば、何故母親自身がすゑるといはれぬのでせうか。かくては湯屋の番頭なる者を誤解をするのみならず、母親自身の、而もお母樣と尊敬されて居られる其母上には何の權威もない者であるといふ事を、自吾子に知らせるのであります。敎育を受ける機會もなかつたといふ下流社會の婦人ならば致し方がないとして、苟も中以上の家庭にある御婦人が、「そら風邪をひく」「そら滑べる」「そら湯の中に陷る」と一擧一動に少しも目を離さぬ程、愛して居られる御子を、かくも我儘に育て上げ、而も母親たる權威を湯屋の番頭に讓つて、其子を嚇すといふのは、如何なる考であられませうか。かゝる幼い子供に命令が行はれぬ樣では、靑年になつたならば如何に指導されるでせう。終には警察官の力でも借りずば、訓棟が出來ぬといふ事になりませう。若自分の權威が子供に行はれぬならば、其理由を靜かに考へて行はれる樣に御努めなさい。又到底他の力を借らねばならぬならば、權威を與ふる價のない者や、一時的の者でなく、眞に畏敬すべき者、永久的の者を求めて御與へなさい。私は世の中流以上に居らるゝ母親方が、其御愛子を立派に敎育せられん爲めに、兒童の心の狀態を今少し注意して御研究になり、自身に吾子を僞けられぬ樣にさられん事を切望致します。

寸感錄

相原生

●一家の家風は其玄關先より窺はるゝときゝしが、殊に訪客の取次方の如きは、直ちに其家婦の人となりを映し出づる樣思はる。取次に出でたる家人がキチンと禮容を正して靜かに姓名を問はるれば、客なる人も端嚴なる念も快よく其門をくゞらるゝもの也。然るに碌々氏名も聞かざる中に奧に走りこみて、斯々の人が來れりなど玄關まで聞ゆる、またなくうとましき心地せらる。始めて訪ねたる家の取次の無禮は、長く其家其主人に對する惡印象を殘すものなり。こは單に家人の場合に限らず、奴婢にせよ、同じ屋根の下の人たる限は、家風の樣も窺はるゝなり。要は客の外貌、年齡をとはず同じ禮もて接するにあるべし。

●仲間より奇人と呼ばれ木強漢と謂はれし友あり。嘗て曰ふ、我れとても婦人の

美を知らぬことなし、されどそは世の常なる美にはあらず。彼の陰森莊嚴なる會堂の内に入りて、頭上白布を被り全身黑裝せる尼僧の、低聲祈禱誦しつゝ神前に額づくを見る時ばかり、わが心、美にうたるゝことなし。敬虔なる其姿、希望と信仰と愛の輝く其の面、げにこれぞ女人最高の美なるべしと、外形の美、肉の艶麗も幾多の人心を奪ふ魔力はあらむ、されど只管に向上し行く內なる人の姿こそ心なしと見ゆる人の心をも動かす力はありけれ。

◉婦人に共通のアンビーションあり、而して男子に之れと對するものなし、何ぞや、曰はく婦人には男子になりたしといふ一念あること是れ也。然れ共こは不自然なる空想に非ず、妄想に非ず、實現し得べきこと也。謂はずや夫婦一體と、若し此種の婦人にして、眞に自覺して滿足なる結婚をなしわんか、其人は之に依りて此一念を達し得たりといふを得べし。偉大なる政治家、宗教家、社會事業家の背後には常に、美はしき繊手もて之を助けたる影あるにあらずや、罪惡の背後には常に婦人の存するを見るといふ、最も忌むべき言と共に、偉大なる事業と人格には非ず其半身を見出すべきことも許さゞるべからず。

編輯だより

▲六月に入りましても、今年は存外すゞしいやうで、氷水屋の裝飾も何だか似つかないやうに見わます位、それにこれからは鬱陶敷梅雨期になりますから、冷暑につけ御健康の上一層の御注意を願ひます。

▲本號から投書欄を設けまして、之をば全然讀者諸姉の御使用におまかせ致します。何卒御遠慮なしに御投稿を願ひます。

▲來月號は夏期號として清新なる內容をもて、家鄉綠陰のほとり、諸姉の健全なる侶伴たらんことを期しております。皆樣の期待と御愛讀を願ひます。

本誌定價　一部金拾錢（郵税ナシ）◎六ヶ月分前金六十錢（郵税ナシ）◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢（郵税ナシ）

外國行定價　壹ヶ月金拾四錢（郵税ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵税ナシ）◎一ヶ年分前金壹圓六拾錢（郵税ナシ）

廣告料

行 廿七字詰	四分ノ一頁	半頁	一頁	內表紙十二圓
金廿五錢	金三圓	金五圓	金十圓	外表紙拾八圓

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候
●郵券代用は一割增の計算にて御送附被下度候
御送金は振替にて拂込るゝ方便利に候。但手數料金壹錢御加へ被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京市小石川區小日向臺町三丁目九十三番地
新人社事務所
振替貯金口座一四〇〇五

明治四十三年五月二十六日印刷
明治四十三年六月　一　日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區小日向臺町三ノ九三　相原一郎介
發行所　東京府下豊島郡巢鴨村大字巢鴨六百六十一番地　新人社
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所

濱蚊帳
濱縮緬

江州長濱名産

小切れ　兵兒帶　うづら縮緬　濱絹

かざり織　眞綿　其他いろ／＼

右は直接織元より取寄せ販賣致し候に付

品質よろしく　價格やすく

本場にて御求め被遊候と毫も變り御座なく候。
試に御注文して御ためし被遊度候。
市内は御報次第早速品物持参御覧に入れ可申候。

東京市牛込區新小川町二丁目十一番地（中ノ橋通リ）

ちりめんや　**山田常愛**

振替東京一四六七五番

英皇哀悼號

新ホーム特別號

一部 十五錢 郵税一錢五厘

▲口繪 十六頁全部光澤紙

●御等身大の英皇帝皇后兩陛下玉容
●御正裝の兩陛下
●新皇帝皇后兩陛下
●諸皇子殿下
●御大婚式
●崩御の宮殿
●前皇の寵姫等
●平人御服裝の兩陛下
●ヴイクトリア女皇陛下
●新帝御幼時
●戴冠式
●佛國名匠の描けるアレキサンドラ陛下

◎近世史上の明君……大隈伯爵
◎赤服を召させられたる先帝……西陸軍大將
◎圓滿豁達の皇帝……林董伯爵
▲英國人の見たる皇帝……プリンクレー、クラーク
▲婦人の見たる皇帝……長崎夫人、安井哲子
◎先帝と新帝 ●菊池總長 ●穗積博士 ●高楠博士 ●高木男
▲新人の見た女大學……（新女大學通解）
◎赤毛布の二百日……和田帝大圖書館長
◎無意味の贈答品……園田十五銀行頭取
▲衆望を負へる稀代の明君主……末松文學博士
▲世界に於ける近代の英主……高橋日銀副總裁
▲二十年前に於ける新帝……黑田貴族院副總裁
▲再度までも咫尺せる新皇帝……伊藤海軍中將

京橋樋町卅二 新ホーム社 （振替東京八五三一）

本號純益を擧げて青森大火罹災者に對する義捐金に寄附す

京都御染物

本檳榔子黑

江戸褄模樣類

新柄小紋色々

東京市小石川茗荷谷町九三

京屋　佐藤松次郎

御一報次第直ちに參上可仕候

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

主筆海老名彈正

新人

定價
一冊 拾五錢
六冊 八拾五錢
十二冊 壹圓六拾五錢
郵稅共

每月一回一日發行

六月號目次

▼村田氏の宗教改革史を讀む　海老名彈正
◉幕末先覺の片影　文學士 海老名一雄
◉ヤンコー（シエンキーヰツ）　菜生譯
▼新人論　文學士 藤井健次郎
▲米國印象記　中村春雨
◉道元の辨道話に現はれたる宗教思想　金子白夢
◉五月の小說梗概
▼國民の發展に於ける敵愾心と博愛心（社說）
◉叙情詩人デーメル　金子筑水
◉都會と精神　文學博士 遠藤隆吉（東部講壇）
▼愛の作用　安部磯雄
▲使徒保羅の宗教とオイケン　文學士 川島
◉綠州の使徒（リイス）
◉「自然と文學」に就て　小山鼎浦
▼使徒保羅（聖書研究）　海老名彈正

發行所　小石川小日向臺町三ノ九三　新人社事務所　振替一四〇〇五番

新女界第貳卷第五號處世號目次

◎處世の覺悟　安井哲子
◎現代の女子教育に就いて　慶應義塾大學講師 向軍治
◎地久節と日本婦人の理想　共立女學校講師 赤星仙太
◎行當りばつたり集　文學士 内ケ崎作三郎
◎追懷の村　丑澤藤郎
◎自然の姿　文學士 栗原基
◎女學生方に望みたき事ども　女子英學塾講師 川島芳子
◎患難に處する心得　海老名みや子
◎少年と讀書　法學士 杉村幹
◎人生難に處するの道　海老名彈正
◎時事其折々
◎不良學生と家庭の事情　法學士 鈴木文治
◎嗟忠勇義烈の士　一記者

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

院長診察月、水、木、金午前、松田醫學士診察火、土、午前、窮者施診、火、木、午前、入院診斷後隨時應需、松田、林、兩副長は目下當院に在勤、

電話本局（八八八病院用 八九八私宅用）

東洋內科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣相州高座郡茅ケ崎村濱（停車場所在）

電話茅ケ崎（二番）

南湖院

河野副長は目下當院に在勤、
院長診察土曜日午後〇同時窮者施診、
副長診察月、火、水、木、金、土、午前
入院診斷後隨時應需、

毎月一日一回發行

明治四十二年三月二十九日第三種郵便物認可

本誌愛讀者

諸君は

ライオン歯磨を

使用したる後暫に口中の爽快を覺ゆるのみならず諸君の齒牙が如何に光澤を有し如何に健强となれるを知りや

ライオン歯磨を

用ゐたる時の口中の爽快と齒牙の清淨とは恰も入浴後に覺ゆる快感に等しきなり

家庭用 美術大罐入

最も御徳用向

體裁優美にして正味頗る多量而も價格の廉なるが故に家庭用として好評嘖々たり

（定價　壹個　金廿五錢）

●試用見本御入用の方は振替貯金又は郵劵代用にて申込あれ直ちに郵送す

發賣元　東京市神田區柳原川岸　小林富次郎

振替貯金口座東京二五二六番

支舖　大坂市東區博勞町　清國天津　漢口

明治四十三年六月一日發行第貳卷第六號